

## 東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物（1）

金子昭彦

Artifacts in Relation to Clay Figurines in the Tohoku Region of the Final Jomon Period (1)

Akihiko KANEKO

岩手県立博物館 020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34. Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan.

### はじめに

渡辺仁氏は、「『土偶』とは、考古学者が分類の便宜上素材をもとに設定した一つの枠組みに過ぎない」とし（渡辺2001：p.118）、岩偶や岩版・土版を含めた枠組みを考えたが、これとても同じく便宜上の別の枠組みに過ぎない。氏の言うような「縄文人自身の主体的枠組み」（同）は、彼らの“文脈”を参照せねばならない。文脈を探るには、同時期の他遺物との比較が不可欠である。文脈研究については約二十年前から試みているが（1997：pp.326～327）、今回「土偶」という枠組みの検討に入りたい。しかし、研究の現状は、“同時性”“関連性”を検討できる段階にない。“一括性”を探るためには、まず各遺跡の調査ごとに関連遺物を検討する必要がある。“関連遺物”を先験的に規定してしまうのは問題だが、対象を絞らないと際限がないので、今回は東北地方・縄文時代晩期に“顔・人体らしきものを持つ遺物”にした。ただし、本文中に示した“組成”では、いわゆる一般の土・石製品まで広げた。

“各遺跡の調査ごとの資料”と言っても、同時性が保証されているわけではなく、また“地域差”の問題も考慮しなければならない。秋田県は比較的短期間の遺跡が多いので、この地域で通史的にまず検討する。他の地域でも、大洞BC2式、大洞C2式、大洞A1式～青木畑式（砂沢式併行）期には、単純に近い遺跡が多いので、秋田県で掘めた通史的な傾向が、地域差でなく他の地域にも当てはまるか次に検証したい。以上で得られた見通しを持てば悉皆的に収集検討しても、他時期の“混入”をかなり防げられると思われる。文字通りの“単純遺跡”などないが、前後の時期を含んでいてもピークが一つの場合はそれと見なした。ピークが分かれる場合は除外している。

### 1 対象・方法・表の見方

一個体一類型に近い動物形土製品の中に珍しく系統的に変遷していく中空の二つの群がある（金子2004：p.14）。モデルが特定しにくいので、小杉康氏が中立的に「中空土製品」（1986）と呼んだが、これでは何か分からない。筆者にも良い考えはないが、片方は、最初期の北海道美々4遺跡出土例の印象が強く想起しやすいので、「美々4型中空動物形土製品」（「美々中空」と略）と仮称しておく。もう片方は「中空土版」と呼ばれることもあり、最初期はそう称するにふさわしいが、途中から頭部を作り出しゲンゴロウ等の甲虫に似た形状になる。総称する良い名称がないが、一貫して正中線を意識し表面は左右対称になる場合が多いので、「正中線中空土版」（「正中中空」と略）と仮称しておく。以上を含め、本稿の対象とする遺物を、表では、土面→人体付土器→人面付土器→岩偶（馬淵川型→その他）→線刻礫・岩版→土版→“正中中空”→“美々中空”→動物形土製品の順に示した。

時期は、概ね金子（2001）ほか参考文献に掲げた筆者の編年に基づいて位置づけたが、岩版・土版は、稲野彰子氏（1983）に従った。しかし、小杉康氏が指摘したように（1986）、稲野氏の編年で位置づけられない一群がある。適当な名称が浮かばないが、稲野氏の編年が慶應義塾大学関係者の努力で培われてきたという学史に因み、関係者は不快に感じるかもしれないが、非KO系列と仮称する。

細かい表の見方は、紙幅の関係で、金子（2010c）に示した土偶のそれを参照いただきたいが、残存率は土偶に比べてかなり大雑把である。また、記載の仕方が、遺跡によってかなりマチマチであることをお詫び

する。なお、本文中に示した組成は、できるだけ当該期に絞ろうとしたため報告書と異なる場合があり、さらに若干の数え間違いもあると思われるが、大きな変動はない。時期区分についても、土偶のそれと概ね同じだが、後期末については、中門亮太氏の瘤付土器編年（2013）を参照し、瘤〇期と標記した。

## 2 秋田県の時期の限られた遺跡

秋田市地方遺跡、上新城中学校遺跡は、出土量のピークが二つの時期に分かれるので、本節では扱わない。各節ごとに表から読み取れる点をまとめるつもりだったが、紙幅の関係で次稿に回す。以下、遺跡ごとに、総括（土器の時期、関連遺物の組成）、表の補足をしていく。なお、第3、4節も同様の構成である。

### ・秋田県大館市家ノ後遺跡（第1表1～19）

本遺跡の岩版は薄いものが主体で、ほとんど1cm未満である。後期末～晩期初頭の土器も多く出土しているのに、岩版は、前葉、中でも大洞BC式期を主体とするようである。

岩版と同様、その他の遺物も時期がバラけるようで、掲載遺物の組成を云々してもあまり意味がないかもしれないが、一応まとめておく。掲載土器は、縄文時代前、中期が数点のほかは、晩期～弥生時代前期で、瘤付第5（4?）期～大洞C2式前半がほとんどであり、大洞A'式新期も十数点見られる。大洞C1式までは同じ程度多くあるが、大洞C2式になると激減する。写真が掲載されていないので定かではないが、明確に大洞A1式と言える破片はない。土偶は、後期末が8点、大洞BC1式期の大型遮光器土偶1点、大洞BC2式期の小型遮光器土偶1点、大洞A'式新期?小型結髪土偶1点である（金子2011a：第2表1559～1569）。その他、石棒・石剣類は11点で、晩期前葉を主体とする柏子所型（後藤1987：pp.29～30）が多い。独銛石は1点で欠損しているが短く晩期前葉に相当するのではないかと（後藤1985：Ⅱ～Ⅲ期中間的）。円盤状石製品数百点。土製耳飾は11点程度、クラゲ状系列1点のほか無文環状系列が主体で、後期末～晩期初頭がほとんどのようである（金子2009a）。文様が陰刻された石製飾り孔垂飾2点（報告書：S161、S222）、石製孔垂飾?2点（S17、18）、類例の見られない土製装飾品数点、スプーン形土製品1点である。

土器の出土傾向と比べると、ほぼ比例するのが土偶、後期末～晩期初頭に多いのは土製耳飾、晩期前葉に多

いのは、岩版、石剣類、1点のみが独銛石となる。

以下、表の補足。報告書（秋田県教育委員会1992）には遺物写真がほとんど掲載されておらず、本稿は図だけで判断したので誤りがあるかも知れない。第156図S156、S157は、計測表に「岩版」とあるが、S156の形はいわゆる岩版には当てはまらず（砥石?）、S157も、それらしく見えないので割愛した。

### ・秋田県旧森吉町白坂遺跡（第1表20～61）

家ノ後遺跡よりは時期のバラツキが少なく、概ね大洞BC2式期を中心とした大洞B1式期～C1式期の様相を示していると思われる。人面付環状注口土器1点（後期末）、土偶26点（大型遮光器土偶中心）、岩偶約4点、岩版・線刻礫約42（典型的岩版約15）点、石剣類約60点（柏子所系列らしきものが多いが文様を持つものが多い）、独銛石2点、円盤状石製品14点、その他に、石製勾玉7点、石製管玉?1点、土製丸玉1点、菱形環状石製品3点?、ボタン状石製品4点（B2式新?1、BC1式?3）（金子2010a）、石製耳飾（クラゲ状）2点、その他石製孔垂飾約7点、木製赤漆塗櫛1点などが掲載されている。上記理由で、岩版・線刻礫は、他遺跡とは比較しがたく多めに算出している。ただし、耳飾が石製であることなど、石製品が多めであるとは指摘できようが、円盤状石製品は少ない。

表の補足。第1表21～23は、「近接した範囲内（径約5m以内）で出土している」（秋田県教育委員会1994：p.135）。「線刻礫」とされたもののうち、写真がなく、線刻が顕著でなくて断面形が岩版からかけ離れている、第105図661、663～665は割愛した。本遺跡の岩版・線刻礫には、幾つかの類型がある。本稿では、典型的なKO系列から他の遺跡では割愛したようなものも含んでしまったが、それは、線刻や使用痕の特徴が類型間で連続的で、切り離しにくかったためである。その結果、前期石棒に似た棒板の端に横線が入っているだけのものも含めたが（第1表58～61）、さすがに剥片に擦痕がついているだけのような報告書第109図684は割愛した。

### ・秋田県旧森吉町向様田A遺跡（第1表62～86）

円筒上層c式土器が1点出土したほかは、全て大洞B2～C2式だそうだが（秋田県教育委員会2004：p.79）、遺構編（秋田県教育委員会2003）には、円筒下層d式（第53図93）、大木10?式土器片（第57図141）も見られる。若干古そうな注口土器もあるが（秋田県教育委員会2004：第60図3、5）、大洞B2式～

第1表 秋田県の時代の限られた遺跡 (\*註の内容は、本文註の後に)

No.	県	遺跡名	種別	時期	形態・系列・形状	残存率	現長cm	接合	付着物		材質 (つくり製)	出土位置	遺跡 評価	掲載箇所	備考
									赤	黒					
1	秋	家ノ後	岩版	B2?	?・1類?	小片	3.4			泥岩		中段	拠点	県教92→S95	写真無。円形沈線。三叉文。裏面剥落
2	秋	家ノ後	岩版	BC1?	隅丸方?・1.2類?	小片	4.8			泥岩		中段	拠点	県教92→S96	写真無。方形入組文。厚さ1.2cm
3	秋	家ノ後	岩版	?	方形?・非KO?	小片	4.3			泥岩		中段	拠点	県教92→S97	写真無。除刻意匠不明。厚さ0.6cm。線刻礫?
4	秋	家ノ後	岩版	?	?・非KO無文?	小片	4			泥岩		中段	拠点	県教92→S99	写真無。厚さ1.1cm
5	秋	家ノ後	岩版	前葉?	?・1~2類?	小片	4.1			?		中段	拠点	県教92→S113	写真無。入組文
6	秋	家ノ後	岩版	BC1?	小判形・1.2類?	2/3	4.6			軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S137	写真無。厚さ0.9cm。蔓状文で方形意匠を描く
7	秋	家ノ後	岩版	?	楕円形?・?	小片	3.2			軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S138	写真無。沈線文様意匠不明
8	秋	家ノ後	岩版	~C2	方形基調・3~4類	小片	2.7			軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S139	写真無。厚さ0.8cm。渦巻文?
9	秋	家ノ後	岩版	前葉?	?・2類??	小片	4.9			軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S140	写真無。厚さ0.9cm。曲線文意匠不明
10	秋	家ノ後	岩版	?	隅丸方形・非KO無文	一欠	7.9			砂岩		中段	拠点	県教92→S141	写真無。厚さ0.8cm。擦痕多。側面取り
11	秋	家ノ後	岩版	?	隅丸方形・非KO	完形	4.8			軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S142	写真無。小さい。厚さ0.6cm。盲孔。擦痕。10.5g
12	秋	家ノ後	岩版	?	?・非KO	2/3	6.4			軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S143	。片面盲孔正中線。★断面不整形→変更?
13	秋	家ノ後	岩版	~C2	?・3~4類	小片	6.5			軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S144	。片面のみ。対向渦巻文。「S144~6同一」
14	秋	家ノ後	岩版	C1?	?・3類?	1/5	8.7			軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S145	。片面盲孔正中線。渦巻文。「S144~6同一」
15	秋	家ノ後	岩版	C1?	?・3類?	1/4	7.4			軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S146	写真無。正中線。渦巻文多。「S144~6同一」
16	秋	家ノ後	岩版	BC1?	長方形・1.2類?	3/4	11.6		○	軟質泥岩		中段	拠点	県教92→S147	。盲孔正中線。方形入組文。円、弧線
17	秋	家ノ後	岩版	B1?	長方形・非KO	1/2?	3.7			?厚0.7cm		中段	拠点	県教92→S211	★顔面→弧状眉、目線、口円。裏渦巻文?
18	秋	家ノ後	岩版	~BC	長方形・2類?	1/4	4.8			?厚0.6cm		中段	拠点	県教92→S212	写真無。渦C字文。裏弧状平行線
19	秋	家ノ後	岩版??	?	?・?	細片	2.8			?		中段	拠点	県教92→S213	写真無。片面のみ。多重沈線?
20	秋	白坂	岩偶	~B2?	顔は具象的	欠損	6.7			軟質凝灰岩		低段	拠点	県教94→638	摩滅風化。三叉文、S字入組文で浮彫表現
21	秋	白坂	岩偶?	~B2?	抽象的	完?	7.6			凝灰岩	近接	低段	拠点	県教94→639	目?貫通孔。体正面S字入組文? 乳房?
22	秋	白坂	岩偶?	~B2?	抽象的	破片	4			凝灰岩	近接	低段	拠点	県教94→640	板状で頭?腕?突起状→x字形土偶似。三叉文
23	秋	白坂	岩偶?	~B2?	抽象的	完?	6.6			凝灰岩	近接	低段	拠点	県教94→641	★胸?4つの貫通孔とS字入組文。腰?盲孔2
24	秋	白坂	岩版	~B2?	隅丸台形・1類似	一欠	7.8			凝灰岩		低段	拠点	県教94→642	表S字貫組文・裏無文帯挟んで連鎖入組三叉文
25	秋	白坂	岩版	BC1?	隅丸長方形・1.2類	2/3	6.8			砂岩		低段	拠点	県教94→643	円文貫く正中線。崩れた方形入組文連鎖と続く
26	秋	白坂	岩版	BC1?	隅丸長方?・1.2?	小片	3.8			凝灰岩		低段	拠点	県教94→644	写真無。粗雑方形文。刺突。註4
27	秋	白坂	岩版	BC2?	隅丸長方?・2類?	1/5	4.7			凝灰岩		低段	拠点	県教94→645	浅くて雑な蔓状文。片面擦痕のみ?
28	秋	白坂	岩版	C1?	?・3類?	1/4	4			凝灰岩		低段	拠点	県教94→646	★側面文様。渦巻文。厚さ1.4cm
29	秋	白坂	岩版	BC2?	隅丸台形・2類?	3/4	9.2			凝灰岩		低段	拠点	県教94→647	★側面文様。方形、蔓状意匠不明瞭浅く粗雑
30	秋	白坂	岩版	BC2?	方形?・2類	1/6	5		○	凝灰岩		低段	拠点	県教94→648	★側面文様。S字入組文。厚さ1.7cm
31	秋	白坂	岩版	BC2?	隅丸方形?・2類	小片	3.3		○	凝灰岩		低段	拠点	県教94→649	★側面沈線。蔓状C字文
32	秋	白坂	岩版	BC2?	方形?・2類	小片	3.7		○	凝灰岩	割口	低段	拠点	県教94→650	蔓状C字文。厚さ1.2cm
33	秋	白坂	岩版	BC2?	方形?・2類	小片	3.9		○	凝灰岩		低段	拠点	県教94→651	蔓状C字文。S字文。厚さ1.2cm
34	秋	白坂	岩版	BC2?	?・2類?	小片	2.7		○	凝灰岩		低段	拠点	県教94→652	★厚さ0.6cm。C字文?
35	秋	白坂	岩版	BC2?	?・2類	小片	3.7		○	砂岩		低段	拠点	県教94→653	厚さ中央1.8、端1.1cm。蔓状C字文なぞり描き?
36	秋	白坂	岩版	?	?・文様あり	小片	3.4		○	凝灰岩		低段	拠点	県教94→654	弧線? 片面のみ。岩版?
37	秋	白坂	岩版	?	長方形・非KO	完形	4.3			凝灰岩		低段	拠点	県教94→655	★片面眉状弧線。片面6字文?側面沈線
38	秋	白坂	岩版	~C1?	長方形?・2.3類?	2/3	5.6			凝灰岩		低段	拠点	県教94→656	中央と頭渦文対称。★文様少。側面鋸歯文
39	秋	白坂	岩版??	C1?	?・非KO?	1/6	3.8			凝灰岩		低段	拠点	県教94→657	擦痕。側面△彫去組合せ→土器口唇突起状
40	秋	白坂	岩版??	?	隅丸長方?・非KO	1/7	4.6			凝灰岩		低段	拠点	県教94→658	写真無。擦痕。「線刻礫」。側面彫去?
41	秋	白坂	岩版??	?	隅丸長方?・非KO	1/7	4.7			凝灰岩		低段	拠点	県教94→659	厚さ1.6cm。側面も擦痕。「線刻礫」
42	秋	白坂	岩版??	?	隅丸長方?・非KO	小片	3.8			凝灰岩		低段	拠点	県教94→660	写真無。擦痕。「線刻礫」。厚さ不均一
43	秋	白坂	岩版??	?	?・非KO	小片	3.4			凝灰岩		低段	拠点	県教94→662	写真無。擦痕。「線刻礫」。厚さ不均一
44	秋	白坂	岩版??	B1?	不整形?・非KO	欠損	7.3			凝灰岩		低段	拠点	県教94→666	摩滅。眉3字除刻上頭状突出。玉抱三叉文連結
45	秋	白坂	岩版??	B1?	腕突出?・非KO	欠損	6.3			凝灰岩		低段	拠点	県教94→667	側面玉抱三叉文連結。三叉文?
46	秋	白坂	岩版??	?	不整形楕円・非KO	完形	10.3			凝灰岩		低段	拠点	県教94→668	側面にも延びる線刻と擦痕。厚さ1.5cm。86g
47	秋	白坂	岩版??	前半	不整形台形・非KO	一欠	11.5			凝灰岩		低段	拠点	県教94→669	擦痕。片面中央に入組三叉文? 断面不整形
48	秋	白坂	岩版??	?	不整形楕円・非KO	一欠	6.5			砂岩		低段	拠点	県教94→670	表裏バンツ?区画内擦痕。小礫未整形?
49	秋	白坂	岩版??	?	楕円形?・非KO	欠損	8.1			凝灰岩		低段	拠点	県教94→671	長楕円浅い線刻。裏面リノグ断面方形未成品?
50	秋	白坂	線刻礫?	?	不整形?・非KO	?	6			砂岩		低段	拠点	県教94→672	断面も不整形。多重線刻
51	秋	白坂	岩版??	?	不整形?・非KO	?	10.7			凝灰岩		低段	拠点	県教94→673	線刻円形他。厚さ2.5cm。断面整形未成品?
52	秋	白坂	岩版???	?	?・非KO?	小片	3.7			凝灰岩		低段	拠点	県教94→674	写真無。擦痕? 厚さ1.4cm
53	秋	白坂	岩版???	?	?・? (未成品?)	?	5.3			凝灰岩		低段	拠点	県教94→675	写真無。断面平ら。厚さ1cm。成形途中未成品?
54	秋	白坂	岩版???	?	?・? (未成品?)	欠?	7.5			凝灰岩		低段	拠点	県教94→676	断面やや不整形。厚さ2.3cm。擦痕→研磨?
55	秋	白坂	岩版??	?	卵形・非KO	完形	14.2			凝灰岩		低段	拠点	県教94→677	表裏バンツ?区画内擦痕。厚さ3.1cm
56	秋	白坂	線刻礫??	?	不整形?	完?	4.9			凝灰岩		低段	拠点	県教94→678	写真無。線刻。厚さ1.4~2.1cm。
57	秋	白坂	線刻礫??	?	棒状・柃子所石棒?	略完	18.7			凝灰岩		低段	拠点	県教94→679	柃子所様平行線に直交深い線刻。厚さ4.2cm
58	秋	白坂	線刻礫??	?	棒板状・前期石棒型	3/5	13			砂岩		低段	拠点	県教94→680	写真無。片端欠損。片端線刻めざした擦痕
59	秋	白坂	線刻礫??	?	棒板状・前期石棒型	完形	8.5			凝灰岩		低段	拠点	県教94→681	写真無。片端線刻。他擦痕。断面反る
60	秋	白坂	線刻礫??	?	棒板?・前期石棒型	一?	7			砂岩		低段	拠点	県教94→682	写真無。小さいが57に似て片端線刻直交線刻
61	秋	白坂	線刻礫??	?	棒板状・前期石棒型	破片	6.8			凝灰岩		低段	拠点	県教94→683	写真無。片端より中央より線刻。擦痕
62	秋	向様田A	岩偶	C1?	馬淵川型	脚片	9.5			凝灰岩		中段	拠点	県教04→295図	目小楕円。乳大。下腹部逆T突出部。背中文様
63	秋	向様田A	岩偶	C2古	馬淵川型	略完	16	△		凝灰岩		中段	拠点	県教04→296図	顔口の凸凹。乳大。首平行線他無文。胴黒付
64	秋	向様田A	岩版	C1?	隅丸方形・3類	5/6	11.8	△	○	凝灰岩	4片	中段	拠点	県教04→298図1	盲孔。正中線。側面文様。対向多重C字文。△彫去
65	秋	向様田A	岩版	C1?	?・3類?	小片	5.5			凝灰岩		中段	拠点	県教04→298図2	二重C字文。裏面剥離
66	秋	向様田A	岩版	BC2?	隅丸長方?・2~3類	1/2	9.8			凝灰岩		中段	拠点	県教04→298図3	正中線? 渦巻文3以上。側面割裁?表磨耗?
67	秋	向様田A	岩版	~C1	隅丸長方?・2~3類	1/3	5.7			凝灰岩		中段	拠点	県教04→298図4	渦巻文。C字入組文
68	秋	向様田A	岩版	C1?	?・3類	1/4	7.1	△		凝灰岩		中段	拠点	県教04→299図1	正中線。対向双頭渦文
69	秋	向様田A	岩版	BC1?	?・厚2.8cm・2類	1/4	6.2			凝灰岩		中段	拠点	県教04→299図2	側面文様。渦巻文。△ほか彫去。★厚い
70	秋	向様田A	岩版	BC2?	?・2類	小片	5.4			凝灰岩		中段	拠点	県教04→299図3	S字文
71	秋	向様田A	岩版	BC2?	長方形・2類	略完	6.9			凝灰岩		中段	拠点	県教04→299図4	両端盲孔正中線。浅い下描状C字文
72	秋	向様田A	岩版	?	長方形・非KO無文	略完	7.8			凝灰岩		中段	拠点	県教04→299図5	「線条痕」。側面(断面)紡錘形
73	秋	向様田A	岩版	BC2?	?・2類	1/4	6			凝灰岩		中段	拠点	県教04→299図6	表面C字文。裏面摺痕?
74	秋	向様田A	岩版	BC2?	?・2類	小片	3			凝灰岩		中段	拠点	県教04→299図7	双頭渦文? 側面文様
75	秋	向様田A	岩版	BC2?	?・2類	小片	3.4			凝灰岩		中段	拠点	県教04→299図8	双頭渦文? 裏面無文?
76	秋	向様田A	岩版	C2?	楕円?・4類。281g	2/3	10.3	△		凝灰岩	4片	中段	拠点	県教04→300図1	★厚い2.9cm。側面文様。角張る渦巻入組文
77	秋	向様田A	岩版	C2?	楕円?・4類	1/3	4.4			凝灰岩		中段	拠点	県教04→300図2	★厚い2.8cm。側面文様。角張る渦巻入組文
78	秋	向様田A	岩版	C2?	?・4類	小片	6			凝灰岩		中段	拠点	県教04→300図3	★厚い2.7cm。角張る渦巻入組文
79	秋	向様田A	岩版	C2?	?・4類	小片	4.7			凝灰岩		中段	拠点	県教04→300図4	角張る渦巻入組文
80	秋	向様田A	岩版	中葉?	?・3~4類?	小片	2.7			凝灰岩		中段	拠点	県教04→300図5	多重線 (意匠不明)

金子昭彦：東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物（1）

No.	県	遺跡名	種別	時期	形態・系列・形状	残存率	現長 cm	接合	付着物		材質 (つくり製作)	出土 位置	遺跡 立地	遺跡 評価	掲載箇所	備考
									赤	黒						
81	秋	向様田A	岩版	C2?	?・4類	小片	4.5			凝灰岩		中段	掘点	県教04→300図6	側面文様。角張る渦巻入組文	
82	秋	向様田A	岩版	C2?	?・4類	1/3?	10.3	○		凝灰岩		中段	掘点	県教04→301図1	★約4m離れて接合。渦巻文	
83	秋	向様田A	岩版	C2?	?・4類	小片	4			凝灰岩		中段	掘点	県教04→301図2	渦巻文	
84	秋	向様田A	岩版	C2?	楕円?・4類?	1/3	9			流紋岩質 頁岩		中段	掘点	県教09→139図11	凝灰岩。正中線。角張った渦巻文。敲打痕? x状陰刻(全体意匠不明)。裏面剥離	
85	秋	向様田A	岩版?	?	?・?	小片	5.9			頁岩		中段	掘点	県教04→301図3		
86	秋	向様田A	土版	C2古?	楕円形・3~4類	1/2	10.7					中段	掘点	県教04→164図1	★正中溝底刺痕。角張った対向双頭渦文	
87	秋	向様田D	岩版	?	?・非KO	2/3	4.3			緑色凝灰岩		低段	掘点	県教05→198図1	片端穿孔、正中線のみ。裏無文? 磨耗	
88	秋	向様田D	岩版	BC2?	長方形?・2類	2/5	6.5			凝灰岩		低段	掘点	県教05→198図2	正中線挟んで二十弧線。山字、S字文。研磨	
89	秋	向様田D	岩版	BC2?	?・2類	小片	3.7			凝灰岩		低段	掘点	県教05→198図3	C字文。磨耗	
90	秋	向様田D	岩版	BC2?	長方形?・2類	1/4	4.8			凝灰岩		低段	掘点	県教05→198図4	穿孔。正中線。C字、山字文。太いナゾリ書き	
91	秋	向様田D	岩版	BC2?	長方形?・2類	1/4	7.9			砂岩		低段	掘点	県教05→198図5	変質凝灰岩質砂岩。C字、S字文	
92	秋	向様田D	岩版	~C1	隅丸長方?・2~3類	1/4	5.8			砂岩		低段	掘点	県教05→198図6	凝灰岩質砂岩。渦巻文。C字文	
93	秋	向様田D	岩版	BC2?	長方形?・2類	1/2	12.2	○	○	砂質凝灰岩		低段	掘点	県教05→198図7	★4m接合。左右対称二重C字文三連。	
94	秋	向様田D	岩版	~C1	長方形?・2~3類	1/3	7.3			砂質凝灰岩		低段	掘点	県教05→198図8	正中線。多重菱形、C字文。薄い0.8cm	
95	秋	向様田D	岩版	BC2?	?・2類?	小片	4			凝灰岩		低段	掘点	県教05→198図9	二重C字文。山字文	
96	秋	向様田D	岩版	BC2?	長方形?・2類?	1/3	3.5			凝灰岩		低段	掘点	県教05→198図10	二重C字文	
97	秋	向様田D	岩版	BC2?	?・2類?	1/4?	9.2		○	凝灰質砂岩		低段	掘点	県教05→199図1	浅い陰刻。多重C字文	
98	秋	向様田D	岩版	?	?・非KO	1/3?	10			砂質凝灰岩		低段	掘点	県教05→199図2	傷程度の浅い陰刻。意匠不明。薄い0.7cm	
99	秋	向様田D	岩版	C1?	隅丸長方形?・?	1/4	7			凝灰岩		低段	掘点	県教05→199図3	側面文様。太く深く雑な陰刻。三叉文。方形文	
100	秋	向様田D	岩版	C1?	隅丸長方形?・?	小片	2.6			凝灰岩		低段	掘点	県教05→199図4	★隅貫通孔。雑で浅い陰刻。三叉文。双頭渦文	
101	秋	向様田D	岩版	C2?	?・4類?	1/4	9.8	○		凝灰岩		低段	掘点	県教05→199図5	楕円基調の渦巻文。三叉文	
102	秋	向様田D	岩版	C2?	?・4類?	小片	6.2			凝灰岩		低段	掘点	県教05→199図6	楕円基調の渦巻文。裏面剥落	
103	秋	向様田D	岩版	C2?	?・4類?	小片	3			緑色凝灰岩		低段	掘点	県教05→199図7	多重円	
104	秋	向様田D	岩版?	C2?	? (括れ)・4類?	一欠	4.5			変質流紋岩質凝灰岩		低段	掘点	県教10→95図1	変質流紋岩質凝灰岩。側面文様。上無文。下凹	
105	秋	向様田D	岩版	C2?	?・4類	小片	4.4			凝灰岩		低段	掘点	県教10→95図2	変質流紋岩質凝灰岩。★断面紡錘形。多重円	
106	秋	向様田D	岩版	C2?	?・4類	1/2?	7.8			凝灰岩		低段	掘点	県教10→95図3	ク。★周縁打欠け円盤に再利用? 正中線	
107	秋	向様田D	岩版	C2	楕円形・4類	1/2	4.9			凝灰岩		低段	掘点	県教10→95図4	変質流紋岩質凝灰岩。楕円渦巻文。一部側面	
108	秋	向様田D	岩版	C2	?・4類	1/3	7.7			凝灰岩		低段	掘点	県教10→95図5	変質流紋岩質凝灰岩。多重入組文。側面も	
109	秋	向様田D	岩版	C2	楕円形・4類	1/2	3.9			凝灰岩		低段	掘点	県教10→95図6	ク。薄い0.8cm。片面正中線。片面穿孔。渦巻文	
110	秋	向様田D	岩版	C1~2	長方形・3~4類	1/3	7.6		?	凝灰岩	割口	低段	掘点	県教10→95図7	変質流紋岩質凝灰岩。渦巻文。三叉文	
111	秋	向様田D	岩版	C2	?・4類	小片	3.3	○		凝灰岩		低段	掘点	県教10→95図8	変質流紋岩質凝灰岩。正中線。渦巻文。三叉文	
112	秋	向様田D	岩版	C2	隅丸長方形・4類	一欠	7.8	○		凝灰岩		低段	掘点	県教10→96図1	ク。表裏渦巻文4。片面正中線。薄い0.5cm	
113	秋	向様田D	岩版	C2?	楕円?・4類	1/2?	6.9			凝灰岩		低段	掘点	県教10→96図2	変質流紋岩質凝灰岩。正中線。渦巻文片面浅い	
114	秋	向様田D	岩版	C2	?・4類	1/4	5.3		?	凝灰岩		低段	掘点	県教10→96図3	変質流紋岩質凝灰岩。細く浅い渦巻文	
115	秋	向様田D	岩版	C1	長方形・3類	1/4	8.8	○		凝灰岩		低段	掘点	県教10→96図4	ク。対向多重双頭渦文。S字文。側面鋸歯文	
116	秋	向様田D	岩版	BC2?	?・2類?	1/3	9.6		→	凝灰岩		低段	掘点	県教10→96図5	ク。★表面漆状付着物。正中線。多重C字文	
117	秋	向様田D	岩版	?	隅丸形・非KO	一欠	11.3			砂岩		低段	掘点	県教10→97図1	片面正中線。三隅欠損? 敲打?	
118	秋	向様田D	岩版	?	隅丸形・非KO	一欠	10.2			変質流紋岩		低段	掘点	県教10→99図5	[有孔石製品]。★片端貫通孔。研磨整形無文	
119	秋	向様田D	岩版??	?	方形・非KO	一欠	4.2	●		頁岩		低段	掘点	県教10→100図11	[板状石製品]。平坦厚0.4cm。研磨整形。線状痕	
120	秋	向様田D	土版	C2	楕円形・4類	1/3	7.8					低段	掘点	県教10→60図22	多重渦巻文	
121	秋	向様田D	土版	C2?	楕円形・4~5類	1/4	4					低段	掘点	県教10→60図23	正中刻目列。渦巻文。多重線(意匠不明)	
122	秋	戸平川	土版	C2古?	遮光器型~土版へ	縁欠	9				断面反る	丘陵	半掘	県教00→93図3	口△隆帯周りに窪む。頭頂B突起。珈琲豆目	
123	秋	戸平川	土版	C2中?	遮光器型~土版中間	剥落	6.9				断面反る	丘陵	半掘	県教00→93図4	磨耗。額頸下剥落。貼付肩刻目列。T字眉鼻	
124	秋	戸平川	土版	C2新?	土版型に近い	剥落	5.3				断面端反る	丘陵	半掘	県教00→93図5	磨耗。口頸下剥落。貼付肩刻目列。Y字眉鼻	
125	秋	戸平川	岩版	~C2古	楕円形・3~4類	一欠	17.5				?	丘陵	半掘	県教00→110図1	全面文様。片面穿孔正中線。厚さ3.3cm。	
126	秋	戸平川	岩版	~C2古	?・3~4類	小片	2.8			?	?	丘陵	半掘	県教00→110図2	多重文	
127	秋	戸平川	土版	~C2古	楕円?・?・3~4類	3/10	3.4					丘陵	半掘	県教00→94図2	表、正中線、△彫去、C字渦巻文。裏、多重文	
128	秋	戸平川	土版	C1新?	隅丸方形?・3類?	1/3	7.9				断面紡錘形	丘陵	半掘	県教00→94図3	表、穿孔正中線に左右対称C字渦巻文、△彫去	
129	秋	戸平川	土版	C1新?	方形?・3類?	3/10	11.3				側面三叉文	丘陵	半掘	県教00→94図4	左右対称C字渦巻文に枝状に接続する三叉文	
130	秋	戸平川	正中変形	C1?	頭突起・断面紡錘形	9/10	6.5				非中空?	丘陵	半掘	県教00→94図1	表裏正中線対称渦状C字文。表穿孔	
131	秋	平鹿	岩版?	~A1?	?・文様意匠不明	小片	4					扇状	掘点	県教83→264	写真無。表裏沈線文様多。三叉文? 厚さ1.5cm	
132	秋	平鹿	線刻礫?	~A1?	三角?・?・文様	不明	3.8				?	扇状	掘点	県教83→267	写真無。表裏沈線文様多。直線多。厚さ0.7cm	
133	秋	平鹿	土版	註5	膨張方形・5~6類	3/4	10				貫通孔	扇状	掘点	県教83→261	写真無。正中線対向方形基調多重二重二段	
134	秋	平鹿	土版	A1	底平ら小判形・5類	9/10	7.5				貫通孔2?	扇状	掘点	県教83→262	写真無。表裏、正中線穿孔挟んで対向多重弧線	
135	秋	平鹿	土版	青木畑?	? (直線)・6類	小片	3.6					扇状	掘点	県教83→263	写真無。多重方形弧線	
136	秋	平鹿	土版?	A1?	?・文様	小片	3.3					扇状	掘点	県教83→265	写真無。細かい鋸歯文連続	
137	秋	平鹿	土版	青木畑?	隅丸方形?・6類	1/10	3.5					扇状	掘点	県教83→266	写真無。対向多重方形弧線	
138	秋	平鹿	土版	A1	隅丸方形・5類	2/5	3.8					扇状	掘点	県教83→71	写真無。二段多重弧線。厚さ0.7cm	
139	秋	狸崎A	土版	A1	隅丸方形?・5類	3/4	5.8					土坑	台地	半掘	秋田85→30図	写真無。正中線対向二重弧線。裏工字文
140	秋	鎧田	岩版	未?	隅丸方形?・6類	3/10	6.5			[軟質凝灰岩]		扇端	半?	県教74→15図13	表裏、正中線挟んで対向細い多重方形弧線	
141	秋	鎧田	岩版	A1?	長楕円形・5類	1/2	3.3			[軟質凝灰岩]		扇端	半?	県教74→15図14	正中線挟んで対向細い多重弧線。三叉文	
142	秋	鎧田	線刻礫	未?	楕円形・非KO	完?	11.8				?	扇端	半?	県教74→15図15	側面打痕? 未成品? 線刻意匠? 裏正中線?	
143	秋	鎧田	土版	未?	隅丸方形?・6類	1/5	12?					扇端	半?	県教74→15図1	図無。90°異なる? 正中線対向多重方形弧?	
144	秋	鎧田	土版	未?	小判形・6類	一欠	8				(側面沈線)	扇端	半?	県教74→15図2	片端貫通孔2。正中線。多重方形弧三段	
145	秋	鎧田	土版	未?	小型円形・6類?	完形	3.5				側面貫通孔	扇端	半?	県教74→15図3	側面沈線。表裏、正中線対向二重方形弧	
146	秋	鎧田	土版	弥生初?	丸み長方形・6類	完形	9.9				貫通孔2	扇端	半?	県教74→21図1	表三段対向多重方形弧崩れ、裏直線。註6	

第2表 大洞BC2式期を中心とした遺跡 (\*註の内容は、本文註の後に)

No.	県	遺跡名	種別	時期	形態・系列・形状	残存率	現長 cm	接合	付着物		材質 (つくり製作)	出土 位置	遺跡 立地	遺跡 評価	掲載箇所	備考
									赤	黒						
147	青	石亀	岩偶	~C1	馬淵川型	1/5	12.9			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→5図1	★特大。胸対弧意匠。渦状入組文連続。乳大	
148	青	石亀	岩偶	~C1	馬淵川型	小片	16	○		白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→5図2	★特大。パツツ区画内条線。「上と同一?」	
149	青	石亀	岩偶	BC1?	馬淵川型	3/8	5.8	△		白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→75図1	胸~両腕。乳大。S字連続文。彫り去り	
150	青	石亀	岩偶	BC1?	馬淵川型	1/9	7			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→75図2	左腕。★「切断痕」。S字連続文。彫り去り	
151	青	石亀	岩偶	C1?	馬淵川型	1/10	11.1			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→76図1	雲形文? 渦巻状入組文。一部工字文状	
152	青	石亀	岩偶	C2古?	馬淵川型	1/10	10			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→76図2	パツツ区画内条線。角張った雲形文	
153	青	石亀	岩偶	C2?	馬淵川型	1/3	2.1			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→77図1	胸。無文。乳大	
154	青	石亀	岩偶	C2?	馬淵川型	3/10	2.9			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→77図2	下半身。無文。下腹部△突出	
155	青	石亀	岩偶	~C1?	馬淵川型	小片	4.6			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→77図3	左腕~脚。腰脇渦巻文。パツツ区画? 条線	
156	青	石亀	岩偶	~C2?	馬淵川型	1/9	5			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→77図4	腰破片。下腹部△突出? 無文?	

No.	県	遺跡名	種別	時期	形態・系列・形状	残存率	現長cm	接合	付着物		材質 (つくり製作)	出土位置	遺跡 立地 評価	掲載箇所	備考
									赤	黒					
157	青	石亀	岩偶	BC1?	馬淵川型	1/9	6.7			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→77図5	バンツ区画。双頭渦文。菱形彫去。爪先刻目
158	青	石亀	岩偶	C1?	馬淵川型	小片	2.3			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→77図6	足。渦巻文。爪先刻目
159	青	石亀	岩版	C1?	楕円?・3類?	1/4	6			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→78図1	透光器眼。盲孔。正中線。対向多重円
160	青	石亀	岩版	BC2?	楕円?・2類?	1/4	4.8			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→78図2	S字入組文
161	青	石亀	岩版	C1?	楕円?・3類?	1/4	3.2			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→78図3	楕円眼。★多重円?一部以下外周描状浅い沈線
162	青	石亀	岩版?	C1?	不整形?・?	1/3	6.5			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→78図4	正中線? 対向渦巻文。意匠不明。裏剥落
163	青	石亀	岩版?	?	隅丸逆台形・非K	完形	6.5			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→78図5	上方側面に一对切れ目。無文。「未成完形品」
164	青	石亀	岩版	BC2?	?・2類?	小片	3.6			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→78図6	入組文。裏面剥離
165	青	石亀	岩版	?	?・?	小片	3.3			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→78図7	多重弧(意匠不明)
166	青	石亀	岩版	BC2?	?・2類?	小片	4.3			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→78図8	側面薄く紡錘形。S字入組文?
167	青	石亀	岩版	BC2?	?・2類?	小片	4.5			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→78図9	S字入組文? 裏面剥離
168	青	石亀	岩版	BC2?	?・2類?	小片	4.6			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図1	S字入組文?
169	青	石亀	岩版	~C1	?・2~3類	小片	3.3			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図2	渦巻文?
170	青	石亀	線刻線?	?	自然線(無加工)?	1/2?	3.7			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図3	「岩版未成品」。擦痕
171	青	石亀	岩版?	?	?・非KO	1/4	3			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図4	「岩版未成品」。擦痕
172	青	石亀	岩版?	?	?・非KO	小片	5			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図5	「岩版未成品」。擦痕
173	青	石亀	岩版?	?	?・非KO	小片	3.3			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図6	「岩版未成品」。擦痕
174	青	石亀	岩版?	?	?・?	小片	5.8			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図7	「岩版未成品」
175	青	石亀	岩版	?	隅丸長方形・非K	3/4	4.4			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図8	正中線未。盲孔2片大深。擦痕。「岩版未成品」
176	青	石亀	岩版?	?	?・無文	1/4	6			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図9	「岩版未成品」
177	青	石亀	岩版?	?	楕円形・無文	1/2	6.6			白色凝灰岩		低段	掘?	古代97→79図10	「岩版未成品」。「研磨顕著」
178	青	泉山	岩版	BC1?	長方形・1-2類中間	3/4	8.8	△		凝灰岩		低段	掘点	県教96→124図1	雲形文状入組三叉文。方形文
179	青	泉山	岩版	B2?	小判形?・1類	1/4	5.8			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→124図2	連綿と続く入組文。方形区画彫去
180	青	泉山	岩版	B2?	?・1類	1/4	5			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→124図3	連綿と続く入組文。方形区画彫去
181	青	泉山	岩版	B2?	?・1類?	細片	2			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→124図4	方形区画?
182	青	泉山	岩版	BC1?	?・1-2類中間?	小片	3.8			凝灰岩		低段	掘点	県教96→124図5	連綿と続く山字入組文?
183	青	泉山	岩版	前葉?	方形・非KO?	2/3?	6			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→124図6	一部対称C字文1単位。側面入組三叉文1単位
184	青	泉山	岩版	BC2?	長方形?・2類?	小片	4.1	△		細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→124図7	入組文。陰刻深い
185	青	泉山	岩版	BC2?	長方形?・2類?	小片	4			凝灰岩		低段	掘点	県教96→124図8	入組文。方形文
186	青	泉山	岩版	BC2?	長方形?・2類?	小片	4.1			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→125図9	文様浅く雑(下描?)。蔓状文。方形区画沈線
187	青	泉山	岩版	前葉?	?・2類?	細片	3.3			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→125図10	文様浅く雑(下描?)。蔓状文
188	青	泉山	岩版	BC2?	方形?・2類	1/4	5			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→125図11	正中線端盲孔。浅く雑なS字、方形文
189	青	泉山	岩版	?	?・非KO	細片	3.2			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→125図12	側面平行線のみ?
190	青	泉山	岩版	BC2?	?・2類?	細片	3.5			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→125図13	浅く雑な沈線。入組文
191	青	泉山	岩版	BC2?	隅丸方形?・2類?	小片	2.5			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→125図14	★盲孔? 雑な沈線。C字文?
192	青	泉山	岩版	~C1	隅丸方形?・2~3類	1/3?	5			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→125図15	磨耗。入組文。側面多重弧線?
193	青	泉山	岩版?	?	隅丸長方形・非KO	1/3	5			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→125図16	浅い陰刻。バンツ状?区画内に細条線
194	青	泉山	岩版?	?	方形?・非KO	1/2?	5			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→125図17	傷程度の浅い陰刻。弧線。意匠?。側面割削?
195	青	泉山	岩版	~BC2	隅丸長方?・1~2類?	完?	6.1			頁岩		低段	掘点	県教96→126図18	下描状なぞり描き。弧線。方形文。意匠不明瞭
196	青	泉山	岩版?	?	長方形?・非KO	1/2	7.1			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→126図19	片端寄り盲孔1のみ。研磨?
197	青	泉山	岩版?	?	隅丸長方形・非KO	1/2?	6.5			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→126図20	割れ口盲孔? 研磨?
198	青	泉山	岩版?	?	隅丸長方形・非KO	1/4	6			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→126図21	片端盲孔。浅く長い傷? 研磨?
199	青	泉山	岩版?	?	長方形・非KO無文	1/2	5.7			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→126図22	盲孔
200	青	泉山	岩版??	?	?・非KO無文?	小片	3.2			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→126図23	
201	青	泉山	岩版??	?	?・非KO無文?	小片	2.9			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→126図24	擦痕?
202	青	泉山	岩版??	?	?・非KO無文?	細片	2.4			凝灰岩		低段	掘点	県教96→126図25	擦痕?
203	青	泉山	岩版??	?	?・非KO無文?	小片	4.2			凝灰岩		低段	掘点	県教96→126図26	擦痕?
204	青	泉山	岩版??	?	?・非KO無文?	小片	2.8			凝灰岩		低段	掘点	県教96→126図27	細線。二重弧線
205	青	泉山	岩版?	~C1?	楕円形?・3類?	1/4	4.8			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図28	磨耗。弧線? 二重弧線?
206	青	泉山	岩版?	?	楕円形?・非KO?	細片	3			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図29	眼状の点と弧線?
207	青	泉山	線刻線?	?	楕円形	片面	5.2			凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図30	左右上下対称弧線→★形・構図298に似る
208	青	泉山	線刻線?	?	円形?	2/3	5.3			凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図31	表裏二重円。★側面研磨→面
209	青	泉山	岩版??	?	楕円形?・非KO?	小片	4.2			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図32	写真無。無文?
210	青	泉山	岩版??	?	楕円形?・非KO?	小片	4.8			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図33	写真無。無文?
211	青	泉山	線刻線?	?	楕円形?	2/5	4.7			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図34	正中線? 葉脈状意匠。裏面剥離
212	青	泉山	岩版??	?	楕円形?・非KO?	小片	4.6			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図35	写真無。無文?
213	青	泉山	岩版??	?	楕円形・非KO無文	一欠?	5			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図36	写真無。線刻線の大きさ。無文?
214	青	泉山	岩版??	?	円形・非KO無文	完?	5.2			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→127図37	写真無
215	青	泉山	岩版??	?	円形・非KO無文	完?	4.8	△		凝灰岩		低段	掘点	県教96→128図39	写真無。不整形円形
216	青	泉山	岩版??	?	円形?・非KO	小片	3.6			凝灰岩		低段	掘点	県教96→128図40	写真無。無文?
217	青	泉山	岩版?	?	楕円?・非KO	4/5	8.8			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→128図42	表裏細かい線条痕(擦痕)多
218	青	泉山	線刻線?	?	?	小?	4.8			凝灰岩		低段	掘点	県教96→128図43	平行線。擦痕。断面不整形。裏面無?
219	青	泉山	岩版?	?	長楕円?・非KO	1/2?	3.7			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→128図45	不整刻線
220	青	泉山	「岩偶」?	?	小判形・非KO	完?	6.7			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→128図46	片面端大きな盲孔。その下対向弧線→207似?
221	青	泉山	岩版??	?	?・非KO	不明	4.3			細粒凝灰岩		低段	掘点	県教96→129図48	片面のみ。扇形基部付近盲孔?
222	青	泉山	岩版??	?	?・非KO	1/4?	8			凝灰岩		低段	掘点	県教96→129図55	盲孔というより敲打痕。幾何学的?沈線陰刻
223	青	泉山	美々中空	BC1?	左右非対称	9/10	4			兩端貫通孔		低段	掘点	県教95→327-163	側面B?突起2単位。蔓状文
224	青	泉山	美々中空	BC2?	全体形亀様・無文	略完	5.6			腹?縦貫通		低段	掘点	県教95→327-165	首?状曲がる。両側B突起2単位
225	青	泉山	正中中空	瘤I?	角張楕円形?正中線	2/3	8.7			三方向貫通		低段	掘点	県教95→328-174	T字刻目隆帯交差点臍貼付、下★貼付。註7
226	青	泉山	正中中空?	後末?	円?	小片	6.4			縦貫通孔		低段	掘点	県教95→328-177	全容不明。腹刺突隆帯。背?渦巻文?平ら
227	青	泉山	正中中空	BC2?	隅丸長方形正中線	一欠	6.3			縦貫通孔		低段	掘点	県教95→328-178	正中~下窓T状。正中端円文。C字文。「土笛」
228	岩	雨滝	岩偶	BC2?	馬淵川型	頭片	4.5			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→975	眼横線無。口三叉文。後頭部渦巻状中央刺突
229	岩	雨滝	岩偶	C1新?	馬淵川型	脚片	4.4			頁岩(軟質)		段丘	掘点	県埋10→976	腕?足の作り出し。入組文。註8
230	岩	雨滝	岩版	BC2?	太型長楕円系列	2/3?	6.1			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→973	「岩偶」→註9。筒形。文様2類? S字文
231	岩	雨滝	岩版	BC2?	隅丸方形・2類	1/3	7.2			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→977	盲孔。正中線。S字入組文。磨耗
232	岩	雨滝	岩版	~C1古	隅丸方形・非KO	縁欠	15			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→978	210g正中線片端盲孔。★片中央敲打、側縁剥離
233	岩	雨滝	岩版	~C1古	方形?・?	小片	5.2			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→979	輪郭に沿う平行線、長楕円形文。側面沈線
234	岩	雨滝	岩版	~C1古	小長方形・非KO	一欠	3.2			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→980	写真図版104の980と別物?→実測後欠損?
235	岩	雨滝	岩版	C1古	長方形・3類?	小片	3.7			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→981	文様たどたどしい。渦巻文。雲形文?
236	岩	雨滝	岩版	C1新?	長方形?・3類?	小片	2.5			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→983	C字入組文?
237	岩	雨滝	岩版	C1新?	?・3類	小片	5.5			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→984	多重沈線。対向するC字文?
238	岩	雨滝	岩版	C1新?	?・3類	小片	2.8	○		凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→985	C字文?

金子昭彦：東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物（1）

No.	県	遺跡名	種別	時期	形態・系列・形状	残存率	現長cm	接合	付着物		材質 (つくり製作)	出土位置	遺跡 立地	遺跡 評価	掲載箇所	備考
									赤	黒						
239	岩	雨滝	岩版	C2古?	長方形?・4類	小片	3.2			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→988	規模の小さい渦巻文	
240	岩	雨滝	岩版	~C1?	?・線刻線?	小片	11			デイスait		段丘	掘点	県埋10→989	浅い線刻があるが、意匠不明	
241	岩	雨滝	岩版	C2古?	?・4類?	小片	3.2			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→998	規模の小さい多重C字文	
242	岩	雨滝	岩版	~C1?	?・有文	小片	2.7			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→999	沈線文様意匠不明。磨耗	
243	岩	雨滝	岩版	BC?	方形・2類	小片	3.5			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→1029	渦巻く、S、C字文	
244	岩	雨滝	岩版?	C2古?	?・線刻線?	小片	5.8			頁岩(軟質)		段丘	掘点	県埋10→986	版状だが浅い線刻→意匠読み取れず	
245	岩	雨滝	岩版?	~C2?	?・無文	小片	3.1			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→987		
246	岩	雨滝	岩版?	BC前後	小長楕円・無文	一欠	5.1			めのう		段丘	掘点	県埋10→990	縁辺部に剥離痕? 節理面	
247	岩	雨滝	岩版?	~C1古	楕円形・無文	1/2?	2.8			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→991	窪み。擦痕	
248	岩	雨滝	岩版?	BC2?	楕円形・無文	1/4	3.8			頁岩(軟質)		段丘	掘点	県埋10→992	傷? Or 多重沈線? 厚い2.4cm	
249	岩	雨滝	岩版?	BC2?	楕円形・無文	1/3?	2.8			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→993	擦痕	
250	岩	雨滝	岩版?	C1新?	長楕円形・無文	1/2	7.8			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→994	断面紡錘形。全面煤? 付着。擦痕。「完形」	
251	岩	雨滝	岩版?	C1古?	?・無文?	小片	6			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→996	写真のみ	
252	岩	雨滝	岩版?	C1古?	?・無文?	小片	2.5			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→997		
253	岩	雨滝	岩版?	~C1?	?・有文?	小片	6.2			頁岩(軟質)		段丘	掘点	県埋10→1000	文様なのかただの線刻なのか。磨耗	
254	岩	雨滝	岩版?	C1新?	?・有文	細片	2.2			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→1001	文様意匠不明。磨耗	
255	岩	雨滝	岩版?	不明	二等辺△~半・無文	略完	9.9			凝灰岩		段丘	掘点	県埋10→1030	擦痕	
256	岩	雨滝	土版	BC?	方形・2類	1/3	8.4					段丘	掘点	県埋10→580	片面剥落。側面にも文様。山字文	
257	岩	雨滝	土版	BC?	隅丸方形・2類	1/4	4.6					段丘	掘点	県埋10→581	山字文	
258	岩	雨滝	美々中空	BC2?	無文。尻貫通孔	頭欠	7.8			中空		掘点	掘点	県埋10→582	ヒレ? 刻目ほか無文。海綿骨針	
259	岩	曲田I	岩版	BC2?	長方形?・2類	1/4	8.8			凝灰岩	住居	扇端	半?	県埋85→943	深く深い蔓状S、C字文。側面平行線2セット	
260	岩	曲田I	正中中空	BC2?	楕円形正中線	1/6	12.4		○	中空		扇端	半?	県埋85→1763	片面のみ。正中線端貫孔。S字連続文。縁取線	
261	岩	手代森	岩版?	?	無文	不明	6.9			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→281図12	★「擦痕痕跡」。裏剥離	
262	岩	手代森	岩版?	?	長方形・無文小さい	完?	5.9			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→281図13	研磨	
263	岩	手代森	岩版?	?	長方形・無文小さい	完?	4.5			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→281図14	研磨	
264	岩	手代森	岩版?	?	長方形・無文小さい	略?	4.5			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→281図15	研磨	
265	岩	手代森	岩版?	?	長方形・2類?	1/2	4.5			凝灰岩	割口	堤防	掘点	県埋86→281図16	浅く痕跡的な蔓状文様	
266	岩	手代森	岩版	?	楕円形・非KO	略完	9.2	△		凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→281図17	片面、片端貫孔貫正中線	
267	岩	手代森	岩版	?	不整楕円形・非KO	完形	6.5			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→281図18	片面片端大貫孔、正中線、浅い対称歯文。	
268	岩	手代森	岩版	BC2?	長方形?・2類	小片	5		○	凝灰岩	両面	堤防	掘点	県埋86→281図19	表裏S字文。「鑑定結果アスファルト」	
269	岩	手代森	岩版	BC2?	楕円形・2類	1/3	5.5			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→281図20	正中線。S字文側面も。表裏磨? 痕跡的	
270	岩	手代森	岩版	BC2?	長方形・2類	1/3	5			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→281図21	正中線貫孔。表裏S字文。側面一部S字文	
271	岩	手代森	岩版	BC2?	長方形・2類	1/4	5.6			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→281図22	S字文。表面剥落。裏面文様少ない?	
272	岩	手代森	岩版	~BC2?	隅丸長方形・KOだが	1/3	4.6			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→282図23	正中線挟み弧線。貫孔2? 裏、方形入組文	
273	岩	手代森	岩版	B2?	隅丸長方形・KOだが	1/2	5.2			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→282図24	長楕円形(目に見える)と方形対称配置。側面も	
274	岩	手代森	岩版	C1?	隅丸長方形・3類?	欠損	7.3			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→282図25	正中線。裏も貫孔。C字入組文浅く痕跡的	
275	岩	手代森	岩版	?	楕円形?・?	小片	2.5			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→282図26	沈線文様意匠不明	
276	岩	手代森	岩版	BC1?	隅丸方形・1~2類	略?	3.8			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→282図27	★極小。貫孔。方形文から蔓状の枝	
277	岩	手代森	岩版	BC2?	方形・2類	完形	3.2			凝灰岩		堤防	掘点	県埋86→282図28	★極小。貫孔正中線。表裏C字文	
278	岩	手代森	土版	~BC2?	隅丸方形?・KO?	欠損	7				側面突起	堤防	掘点	県埋86→169図1	正中線浮彫6字文。方形入組文状だが連続	
279	岩	手代森	土版	BC2?	隅丸方形?・2類	小片	3.2					堤防	掘点	県埋86→169図2	表裏渦巻状C字文	
280	岩	手代森	土版	A?	隅丸方形・5類	略完	5.5			側面沈線巡		堤防	掘点	県埋86→169図3	表裏正中線間刺突列。左右対称多重弧線	
281	岩	手代森	土版	初頭?	?・KO?(2類?)	小片	5					堤防	掘点	県埋86→169図4	不規則で意匠読み取れない。弧線	
282	岩	手代森	土版	前葉?	方形・2類?	小片	4.2					堤防	掘点	県埋86→169図5	C字文?	
283	岩	手代森	土版?	後後?	棒状・非KO	不明	5.2			割口管孔		堤防	掘点	県埋86→169図6	片面棒状入組文。土偶? 片端割口管孔	
284	岩	手代森	美々中空	C2後~	隅丸方形頂部突起	完形	7.1			縦貫孔		堤防	掘点	県埋86→166図1	正中刺突列上方に貫孔。背中入組文。全身刻目	
285	岩	手代森	美々中空?	?	楕円形?突起	1/4	5.6			中空		堤防	掘点	県埋86→166図2	突起? 曲がる。無文?	
286	岩	手代森	美々中空	BC2?	楕円形ヒレ状突起	一欠	4.5			口尻? 貫孔		堤防	掘点	県埋86→166図3	長いヒレ突起刻目列。腹入組文	
287	岩	手代森	美々中空	B2?	楕円形ヒレ状突起	小片	5.2			中空?		堤防	掘点	県埋86→166図4	★大。ヒレ突起B2様半円陰刻。裏面剥落?	
288	岩	手代森	美々中空	~C1?	菱形四隅突起	完形	5.5			口尻? 貫孔		堤防	掘点	県埋86→166図5	背中入組文。正中線2? 下孔?	
289	岩	手代森	美々中空	BC1?	紡錘~菱形?	1/4	4			中空?		堤防	掘点	県埋86→166図6	正中線端貫通孔。ヒレ刻目列。他無文?	
290	岩	手代森	美々中空	BC2?	楕円? ヒレと端広い	1/3	5.2			中空		堤防	掘点	県埋86→166図7	正中線。C字文多。幅広ヒレ刻目列	
291	岩	手代森	美々中空?	?	(端部分破片?)	小片	3					堤防	掘点	県埋86→166図8		
292	岩	手代森	美々中空	~C1?	紡錘形? ヒレ大	1/2	5			「中空」		堤防	掘点	県埋86→166図9	正中? 湾曲隆帯。無文。表裏貫通孔	
293	岩	手代森	動物形?	?	イノシシ頭部片?	小片	4					堤防	掘点	県埋86→167図1	頭上中央沈線両側縄文。口半開き。目短沈線	
294	岩	小田	岩版	C1~2	?・3~4類	小片	4			泥岩		中段	掘点	大迫79→48図1	凝灰岩質泥岩。側面文様。多重弧線	
295	岩	小田	美々中空	~BC2?	口尻貫通孔	一欠	8			平板中空		中段	掘点	大迫79→25図7	手? B突起。S字、C字文。「笛?」	
296	岩	小田	美々中空	~C2?	無文。口のみ貫通孔	一欠	7			中空		中段	掘点	大迫79→25図8	手? 尾? 突起弧状陰刻。「笛?」	
297	岩	小田	美々中空	~C2?	「穴二箇所」	小片	5.8			中空		中段	掘点	大迫79→25図9	突起に刻目列	
298	岩	小田	線刻線	「C2」	楕円形	完形	3.2			石質?		中段	掘点	大迫90→18図10	★片面入組文。片面十層内式様意匠文	
299	宮	中沢目	土面	BC2	流涙型・装飾多	3/5	16	△	○	目口貫通孔		丘陵	掘?	東北84→20図版	人面大。内面凹。浮文S字意匠等。刺突。鼻剥落	
300	宮	中沢目	岩版?	BC?	長楕円形・2類??	略完	7			泥岩		丘陵	掘?	東北84→21図11	★両面下端敲打→径1cm凹。不規則蔓状文	

第3表 大洞C2式期を中心とした遺跡 (\*注の内容は、本文注の後に)

No.	県	遺跡名	種別	時期	形態・系列・形状	残存率	現長cm	接合	付着物		材質 (つくり製作)	出土位置	遺跡 立地	遺跡 評価	掲載箇所	備考
									赤	黒						
301	青	今津	土面	C2	土版型?	1/2	5.4			内面平滑		扇状	半掘	県教86→145図	眉~鼻Y字隆帯眉上刺突列。目楕円貼付	
302	青	今津	岩版	C2	楕円形・4類?	略完	14.6			石質不明		扇状	半掘	県教86→150図3	片面正中線? 雲形文線刻。磨耗? 321g	
303	青	今津	岩版	不明	楕円形・非KO	完形	9.4			石質不明		扇状	半掘	県教86→150図4	片面貫孔3。片面バンツ区画? 擦痕? 136g	
304	青	今津	岩版??	不明	楕円形・無文	完形	5.3			石質不明		扇状	半掘	県教86→150図5	傷? 厚さ1.6cm。15g	
305	青	今津	岩版??	不明	楕円形・無文	完?	3.9			石質不明		扇状	半掘	県教86→150図6	縁辺に傷? 厚さ0.9cm。3.8g	
306	青	今津	岩版?	不明	不整楕円形・無文	完形	12.5			石質不明		扇状	半掘	県教86→150図7	表裏擦痕。厚さ3.3cm。399g	
307	青	今津	岩版?	不明	不整楕円形・無文	1/3	9.8			石質不明		扇状	半掘	県教86→150図8	裏面剥離。擦痕	
308	青	今津	岩版?	不明	楕円形・無文	完形	8.7			石質不明		扇状	半掘	県教86→151図1	表裏擦痕。貫孔? 厚さ2.1cm。121g	
309	青	今津	岩版??	不明	不整楕円形・無文	欠損	8.4			石質不明		扇状	半掘	県教86→151図2	表裏擦痕。厚さ1.3cm	
310	青	今津	岩版	不明	不整楕円形・非KO	完形	10.4			石質不明		扇状	半掘	県教86→151図3	表裏バンツ区画内条線? 厚さ2cm。152g	
311	青	今津	岩版??	不明	楕円形・無文	完形	9.7			石質不明		扇状	半掘	県教86→151図4	片面磨面。厚さ2.4cm。178g。磨石?	
312	青	今津	岩版??	不明	楕円形?・無文?	不明	8.2			石質不明		扇状	半掘	県教86→151図5	表裏擦痕・厚さ1.2cm	
313	青	今津	岩版	C2?	方形?・4類?	小片	3.6			石質不明		扇状	半掘	県教86→151図6	C字入組文? 厚さ1.7cm	
314	青	今津	土版	C2?	胴張方形・4類	1/4	4.8					扇状	半掘	県教86→150図1	片面C字入組文? 片面意匠不明。厚さ2.2cm	

No.	県	遺跡名	種別	時期	形態・系列・形状	残存率	現長cm	接合	付着物		材質 (<くり製作)	出土位置	遺跡 立地	遺跡 評価	掲載箇所	備考	
									赤	黒							
315	青	今津	土版	C2?	?・4類??	小片	3							扇状	半挽	県教86→150図2	片面多重線C字文? 裏面摩耗で不明?
316	青	明戸	岩偶	C2古?	遮光眼・後頭渦巻文	小片	4.5			白色凝灰岩			低段	半?	十和田83→9図38	額3線。鼻?盲孔。首刻目隆帯。雲形文	
317	青	明戸	岩版	C2?	方形?・4類?	小片	4						低段	半?	十和田83→9図39	写真無。裏面剥離。入組文?	
318	青	明戸	岩版	C2?	?・4類??	小片	4.6						低段	半?	十和田83→9図40	写真無。裏面剥離。渦巻文?	
319	青	明戸	岩版?	不明	方形?・?	不明	6						低段	半?	十和田83→9図41	写真無。多重直線?擦痕? 厚さ1cm	
320	青	明戸	岩版?	C2?	楕円形?・4類??	3/8	5.6						低段	半?	十和田83→9図42	妖怪塗壁似る。★眉と目陰刻? 臍腹渦巻文?	
321	青	明戸	岩版	不明	胴張方形・非KO	3/4	5						低段	半?	十和田83→9図43	擦痕。厚さ1cm	
322	青	明戸	土版	A2??	隅丸長方形・6類?	3/10	6.5						低段	半?	十和田83→7図19	対向多重方形弧線数段。厚さ1.1cm	
323	青	明戸	正中中空	C2中?	頭突起甲虫型	略完	6.3			中空貫通孔			低段	半?	十和田83→7図18	頭二股突起。正中刺突列。臍腹多重C字状線	
324	青	明戸	土版?	C2古?	小型遮光器面?	2/3	8.1						低段	半?	十和田84→58図2	「土偶」。写真無。眉目下刺突列。顎下髯状刻線	
325	青	明戸	岩偶??	前~中	脚?? 浅い線刻?	小片	4.3			凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図4	「岩版」。渦巻文。三叉文。直線。厚さ不均質	
326	青	明戸	岩版	C2?	隅丸方形・4類	略完	5.8		○ 沈刻	凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図1	表盲孔正中線。多重C字文(一部入組)。31g	
327	青	明戸	岩版	C1?	方形・3類	3/10	3		○	凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図2	表正中線。渦巻くC字文対向、入組。厚さ0.8cm	
328	青	明戸	岩版	~C1	?・3類?	1/6	3.4			凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図3	S字文。渦巻文。厚さ1.2cm	
329	青	明戸	岩版	C1?	隅丸長方形・3類	3/7	7.3		○	凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図5	表裏正中線対向先端渦状C字文。厚さ1.8cm	
330	青	明戸	岩版	~C2	隅丸方形・3~4類	1/4	7			凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図6	渦巻文。三叉文。厚さ1.7cm	
331	青	明戸	岩版	C2?	?・?	小片	3.5						低段	半?	十和田84→61図7	多重弧線?	
332	青	明戸	線刻線	不明	楕円形?・非KO	7/10	9			凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図8	自然線?に表裏刻線による絵? 厚さ1.3cm	
333	青	明戸	線刻線	不明	楕円形・非KO	一欠	4.3			凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図9	自然線?に片面刻線による絵? 厚さ1.2cm	
334	青	明戸	土版?	不明	隅丸方形・無文	略完	4			凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図10	「板状石製品」。厚さ0.7cm。12g	
335	青	明戸	岩版?	不明	方形・無文	5/9	3			凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図11	「板状石製品」。擦痕。厚さ0.7cm	
336	青	明戸	岩版?	不明	楕円形・無文	完形	6.4			凝灰岩			低段	半?	十和田84→61図12	「板状石製品」。整形入念。厚さ1cm。46g	
337	青	明戸	土版	C2~A	方形・5・6類	1/6	3.5						低段	半?	十和田84→60図2	表多重方形弧線、裏多重弧線。刻目隆帯?	
338	岩	本宮堂A	岩版??	不明	隅丸方形・表裏剥落	不明	14			粘板岩			小?	泉埋04→S362	隅側面研磨。表裏剥落。「不明石製品」		
339	岩	本宮堂A	土版	A1?	楕円形・5類	5/6	11.8	△ ●		裏工字文			堤防	小?	泉埋04→63	表正中沈線間刺突列対向多重弧線二段。註10	
340	岩	本宮堂A	土版	A1?	胴張方形・5類	1/4	5.2						堤防	小?	泉埋04→277	表裏正中平行線対向多重弧線。厚さ1cm	
341	岩	城内	正中中空?	C2?	頭突起甲虫型?	欠損	7.9			貼合せ中空			堤防	半挽	紫波85→28図11	首肛門貫通孔。乳剥落。臍腹雲形文? 磨耗	
342	岩	安堵屋敷	岩版	C1?	楕円形・3類?	完形	11.2			極細粒凝灰岩			堤防	半挽	泉埋84→DR164-3	表裏正中線。表、対向渦巻C字文	
343	岩	安堵屋敷	土版?	不明	隅丸方形?・非KO	不明	7						堤防	半挽	泉埋84→DR136-1	表裏線に沿って3本線。片面盲孔? 厚さ2cm	
344	岩	安堵屋敷	土版?	不明	隅丸方形?・非KO	不明	6						堤防	半挽	泉埋84→DR136-2	表裏線に沿って1本線。片面盲孔? 厚さ1.7cm	
345	岩	安堵屋敷	土版?	A1??	不整楕円形小角2	完形	6.6						堤防	半挽	泉埋84→DR137-1	表裏二重歯一周展開。刻目隆帯。厚さ不均質	
346	岩	安堵屋敷	土版	A1?	隅丸方形・5類	2/7	3.8						堤防	半挽	泉埋84→DR137-2	表裏、正中線対向多重弧線。厚さ1.3cm	
347	岩	安堵屋敷	土版	A1?	楕円形・5類	3/7	3.7						堤防	半挽	泉埋84→DR137-3	表裏、正中線対向多重弧線。厚さ0.9cm	
348	岩	安堵屋敷	土版	A1	?・5類	1/5	4.4						堤防	半挽	泉埋84→DR137-4	工字文。裏、対向多重弧線二段? 厚さ1.2cm	
349	岩	安堵屋敷	土版	A1?	楕円形・5類?	3/8	5.3						堤防	半挽	泉埋84→DR137-5	表裏正中線半截竹管刺突列。一部多重弧?	
350	岩	安堵屋敷	土版	A1?	楕円形?・5類?	1/6	3.3						堤防	半挽	泉埋84→DR137-6	表裏対向多重弧線。厚さ0.8cm	
351	岩	安堵屋敷	土版	A1?	楕円形?・5類?	1/7	4.6						堤防	半挽	泉埋84→DR137-7	片面対向多重弧線? 裏面二重弧線?	
352	岩	安堵屋敷	土版	C2?	隅丸方形・4・5類?	7/10	7.4			★顔表現			堤防	半挽	泉埋84→DR137-8	表裏正中線刺突列蛇行沈線。目貼付。口凹	
353	岩	安堵屋敷	土版	A1?	隅丸方形・5類?	3/7	6.6						堤防	半挽	泉埋84→DR137-10	表裏正中刺突列。★多重弧線様々な方向	
354	岩	安堵屋敷	土版	A1?	楕円形?・5類?	3/8	6			★顔表現			堤防	半挽	泉埋84→DR138-2	表裏対向多重弧線。表目貼付。裏工字文	
355	岩	安堵屋敷	正中中空?	不明	隅丸方形基調	不明	6.9			中空			堤防	半挽	泉埋84→DR138-4	乳剥落。正中刻目列。肛門孔。厚さ3cm	
356	岩	安堵屋敷	?	~A1?	円形に頭四肢突起	9/10	9.4			中空			堤防	半挽	泉埋84→DR138-6	乳縦長貼付。正中隆帯刻目。四肢B突起	
357	岩	安堵屋敷	????	不明	手足のない蛙状	略?	4.6			中空			堤防	半挽	泉埋84→DR139-2	目口貼付で蛙顔。目の間刻目隆帯	
358	岩	安堵屋敷	正中中空?	C2?	甲虫型	1/6	6.5			中空?			堤防	半挽	泉埋84→DR139-3	正中Y字線刻目隆帯。乳貼付。臍腹多重C字文	
359	岩	安堵屋敷	????	A1??	楕円形?	1/3	8.4			中空			堤防	半挽	泉埋84→DR139-8	天地逆。正中隆帯刻目に沿った多重平行線	
360	岩	安堵屋敷	美々中空	~A1?	首突起隅丸方形	一欠	7.7			肛門孔			堤防	半挽	泉埋84→DR138-3	頭欠損。無文。胸T字貼付剥落	
361	岩	安堵屋敷	??	??	隅丸方形?	1/8	4.8			肛門孔			堤防	半挽	泉埋84→DR138-5	中空片面のみ。片面無文	
362	岩	安堵屋敷	????	不明	円形基調	不明	7.9			板状			堤防	半挽	泉埋84→DR136-5	片端欠損。表裏無文。側面刻目列	
363	岩	安堵屋敷	????	不明	洗滌形頭欠損	不明	6			空実不明			堤防	半挽	泉埋84→DR139-1	喉と肛門孔。全面縄文	
364	岩	大橋	土版	C2中?	遮光器~土版型中間	1/3	6.8			断面縁角			扇端	半?	泉埋06→2463	眉目刻目隆帯。裏平滑。耳末貫通孔	
365	岩	大橋	土版?	C2新?	遮光器~土版型中間	1/6	4			断面縁直角			扇端	半?	泉埋06→2468	密な曲線文。裏縁刻目列	
366	岩	大橋	岩版?	不明	雫形・非KO	完形	10.1			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2644	片面片端盲孔。下端側面盲孔? 擦痕多。107g	
367	岩	大橋	岩版?	不明	雫形・非KO	完形	8			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2645	片面片端盲孔。擦痕多。94g	
368	岩	大橋	岩版?	不明	傘状楕円形・非KO	完形	8.7			凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2646	片面片端盲孔。厚さ2.1cm。175g	
369	岩	大橋	岩版?	不明	雫形・非KO	完形	7.9			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2647	片面片端盲孔。厚さ2~1cm。99g	
370	岩	大橋	岩版?	不明	楕円形・非KO	完形	7.9			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2648	片面片端盲孔。★裏面中央敲打痕。63g	
371	岩	大橋	岩版?	不明	楕円形・非KO	一欠	10.6			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2649	片面片端盲孔。★側面打欠。厚さ2.2cm。243g	
372	岩	大橋	岩版??	不明	雫形?・非KO	欠損	9			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2650	★片端貫通孔。打欠。厚さ2.3cm以下	
373	岩	大橋	岩版?	不明	雫形・非KO	一欠	7.1			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2651	片面片端盲孔。★側面打欠。擦痕	
374	岩	大橋	岩版??	不明	長楕円形?・非KO	1/4	4.8			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2652	片面片端盲孔。擦痕。裏面剥落	
375	岩	大橋	岩版?	不明	楕円形?・非KO	一欠	9.3			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2653	片面(平皿)片端盲孔。敲打痕。側面打欠?	
376	岩	大橋	岩版??	不明	?・非KO	不明	2.7			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2654	敲打痕??	
377	岩	大橋	岩版	不明	小楕円形?・非KO	3/7	3			凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2655	盲孔から伸びる正中線。擦痕。厚さ0.9cm	
378	岩	大橋	岩版	不明	角残る楕円形・非KO	略完	10			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2656	片面小さな盲孔から伸びる正中線。179g	
379	岩	大橋	岩版	不明	円~楕円形・非KO	一欠	6.5			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2657	片面盲孔から正中線。★周縁打欠	
380	岩	大橋	岩版	不明	楕円形・非KO	3/7	4.8			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2658	片面盲孔から正中線。★側面打欠	
381	岩	大橋	岩版	不明	楕円形・非KO	完形	9.3			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2659	片面両端盲孔間正中線。厚さ1.5~0.8cm。118g	
382	岩	大橋	岩版	不明	楕円形・非KO	完形	7.2			凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2660	片面両端盲孔間正中線。裏盲孔。57g	
383	岩	大橋	岩版	不明	角張楕円形・非KO	完形	6.3			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2661	片面両端盲孔間正中線。厚さ1.3~0.8cm。58g	
384	岩	大橋	岩版?	不明	角張楕円形・非KO	3/10	7.2			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2662	正中線? 擦痕。厚さ1.6cm	
385	岩	大橋	岩版	不明	角張楕円形・非KO	略完	6			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2663	片面片端盲孔から正中線。直交線。「打欠」	
386	岩	大橋	岩版?	不明	楕円形・非KO	完形	8.5			凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2664	正中線状擦痕?(下描?)。87g	
387	岩	大橋	岩版	不明	やや不整楕円・非KO	一欠	15.5			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2665	表裏正中線中央★敲打痕。縁辺「打欠」。478g	
388	岩	大橋	岩版	A1?	長楕円形・5類	欠損	14.3	△		凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2666	表裏正中線対向多重弧線二段。表盲孔。註11	
389	岩	大橋	岩版	A1?	長楕円形・5類??	不明	8	△		凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2667	表裏正中線。盲孔。対向多重弧線一箇所	
390	岩	大橋	岩版	A1?	小楕円形?・5類	4/9	2.5			緑色凝灰岩	盛土		扇端	半?	泉埋06→2668	表裏正中線。盲孔。対向多重弧線二段	
391	岩																

金子昭彦：東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物（1）

No.	県	遺跡名	種別	時期	形態・系列・形状	残存率	現長cm	接合	付着物		材質 (つくり製作)	出土位置	遺跡 立地	評価	掲載箇所	備考
									赤	黒						
397	岩	大橋	岩版	A1?	楕円形・5類	1/6	4			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2675	裏剥落。正中線対向多重弧線二段?	
398	岩	大橋	岩版	C1?	長楕円形・3類?	不明	6.4			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2676	表、正中線、蔓状C文字。縁辺打欠	
399	岩	大橋	岩版	C1?	?・3類?	3/4	8.8			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2677	表盲孔正中線対向多重弧線。裏多重円。剥落多	
400	岩	大橋	岩版?	不明	?・非KO?線刻	不明	6			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2678	下端窪む。直線。表裏中央敲打痕。上辺打欠	
401	岩	大橋	岩版	BC?	楕円形?・2類?	小片	5.2			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2679	三叉文に返し。C文字。厚さ1.3cm	
402	岩	大橋	岩版	C1?	長楕円形・3類?	2/3	16			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2680	表裏正中線対向弧線。片面中央敲打痕。打欠	
403	岩	大橋	岩版	不明	長楕円形・非KO	一欠	12.6			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2681	表盲孔正中線、裏盲孔。意匠不明線刻。下打欠	
404	岩	大橋	岩版	不明	楕円形・非KO	略完	10			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2682	表盲孔正中線挟んで円形文→★目? 打欠	
405	岩	大橋	岩版	C2?	楕円形・4類??	一欠	19.2			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2683	浅い線刻雲形文?? 上部打欠	
406	岩	大橋	岩版	不明	長楕円形・非KO	完形	5.2			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2684	盲孔。浅い直線の線刻。厚さ0.8cm。18g	
407	岩	大橋	岩版??	不明	長楕円形・非KO	完形	8.6			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2685	擦痕(側面も)。厚さ1.3cm。61g	
408	岩	大橋	岩版??	不明	?・非KO	不明	8.4			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2686	正中線? 表裏中央敲打痕	
409	岩	大橋	岩版??	不明	?・非KO	小片	6			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2687	正中線? 打欠	
410	岩	大橋	岩版??	C2??	楕円形・非KO	完形	7.8			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2688	浅い下描き? 対向弧線三段? 103g	
411	岩	大橋	岩版??	不明	楕円形・非KO	完形	6.2			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2689	擦痕。縁辺磨面? 厚さ1.3~1cm。53g	
412	岩	大橋	岩版??	不明	楕円形・非KO	欠損	10			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2690	片面擦痕。片面中央敲打痕。両端打欠	
413	岩	大橋	岩版??	不明	長楕円形・非KO	完形	10.7			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2691	浅い線刻弧線意匠不明。表裏中央敲打痕	
414	岩	大橋	岩版??	不明	楕円形・非KO	完形	5.3			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2692	線刻弧線意匠不明。厚さ1cm。30g	
415	岩	大橋	岩版?	A1??	楕円形?・5類?	3/5	4.1			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2693	盲孔。深い線刻。対向多重弧線。打欠	
416	岩	大橋	岩版?	A1??	卵形・5類??	完形	16.2			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2694	浅い線刻対向多重弧線? 擦痕。打欠。1536g	
417	岩	大橋	岩版??	不明	楕円形・非KO	一欠	10.7			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2695	浅い線刻。周縁打欠。厚さ1.6cm。179g	
418	岩	大橋	岩版??	不明	長楕円形・非KO	完形	13.3			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2696	表擦痕。裏中央敲打痕。表へ凸。272g	
419	岩	大橋	岩版??	不明	楕円形・非KO	完形	12.1			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2697	擦痕。打欠。厚さ1~0.7cm。56g	
420	岩	大橋	岩版??	不明	楕円形?・非KO	不明	5.5			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2698	擦痕	
421	岩	大橋	岩版??	不明	長楕円形・非KO	不明	5.4			凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2699	片面擦痕	
422	岩	大橋	岩版??	不明	卵形・非KO	略完	10			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2700	片面敲打痕。厚さ2.6~1cm。255g	
423	岩	大橋	岩版	C2	長楕円形・4類	3/5	15.2			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2701	雲形文五段	
424	岩	大橋	岩版?	不明	?・有文	不明	4.6			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2702	浅い線刻曲線文ランダム	
425	岩	大橋	岩版??	不明	卵形・非KO	完形	6.5			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2703	擦痕。[打欠]。厚さ1.2cm。56g	
426	岩	大橋	岩版?	C2??	円形?・4類??	3/4	10			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2704	盲孔。入組三叉文? 雲形文? 厚さ3.5cm	
427	岩	大橋	岩版??	不明	?・非KO	欠損	9			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2705	線刻。周囲打欠	
428	岩	大橋	岩版	C2??	方形・4類??	小片	5			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2706	裏面剥落。雲形文? 三叉文	
429	岩	大橋	線刻礫	不明	円形・非KO	欠損	17.4			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2707	表裏割裁? 浅い線刻。一部十字。縁辺打欠	
430	岩	大橋	岩版??	不明	雫形・非KO	完形	15.3			凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2708	擦痕。打欠。厚さ2.3cm。156g	
431	岩	大橋	岩版??	不明	楕円形?・非KO	1/2	6.5			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2709	表裏割裁? 擦痕	
432	岩	大橋	岩版??	不明	楕円形・非KO	完形	4.8			凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2710	擦痕。13g	
433	岩	大橋	岩版??	不明	円形・非KO	完形	4.2			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2711	擦痕。40g	
434	岩	大橋	岩版??	不明	?・非KO	不明	6.2			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2712	裏面剥落。擦痕	
435	岩	大橋	岩版??	不明	角張楕円形・非KO	一欠	8.4			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2713	厚さ1.7cm。150g	
436	岩	大橋	岩版??	不明	角張楕円形?・非KO	不明	5.4			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2714	擦痕? 厚さ1.3cm	
437	岩	大橋	岩版??	不明	円形・非KO	完形	5.9			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2715	断面台形。厚さ1.2cm。33g。円盤状石製品?	
438	岩	大橋	岩版??	不明	雫形・非KO	一欠	9.7			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2716	擦痕? 周囲打欠。厚さ1.7cm。11g	
439	岩	大橋	岩版??	不明	楕円形・非KO	一欠	7.2			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2717	擦痕? 縁辺打欠。厚さ1.5cm。72g	
440	岩	大橋	岩版??	不明	?・非KO	不明	6.8			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2718	下端打欠。厚さ1cm	
441	岩	大橋	岩版?	不明	隅丸方形・非KO	一欠	6.3			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2719	片面正中線。擦痕。厚さ1.1cm	
442	岩	大橋	岩版	A1?	台形・5類未成品?	完形	6.8			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2720	片面正中線。細く浅い対向多重弧線二段。側面沈線	
443	岩	大橋	岩版	A1?	長方形・5類	1/2	2.2			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2721	表裏正中線。表対向多重弧線。厚さ0.4cm	
444	岩	大橋	岩版	A1?	?・5類	1/5	2.2			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2722	表裏正中線対向多重弧線。厚さ0.8cm	
445	岩	大橋	岩版	不明	台形・非KO	完形	4.5			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2723	表盲孔正中線。擦痕。厚さ0.8cm。32g	
446	岩	大橋	岩版	C1?	胴張方形・3類?	1/2?	3			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2724	表盲孔正中線。渦C文字。★[欠損後に再生]	
447	岩	大橋	岩版	A2?	台形・5-6類	略完	5			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2725	盲孔。正中線。対向多重弧線。厚さ1.1cm	
448	岩	大橋	岩版	不明	胴張方形・3類?	1/3	4.2			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2726	盲孔正中線。打欠。[敲打痕]。擦痕	
449	岩	大橋	岩版	A1?	隅丸方形・5類	2/7	6.3			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2727	盲孔正中線。★雄ななぞり描き対向多重弧線	
450	岩	大橋	岩版	A1?	隅丸方形?・5類	1/4	5			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2728	盲孔正中線。対向多重弧線。厚さ1cm	
451	岩	大橋	岩版	A1?	台形・5類	3/4	9	○		凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2729	正中線対向多重弧線二段。側面沈線。約5m 接合	
452	岩	大橋	岩版	A1?	台形?・5類	1/5	5.2			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2730	正中線対向多重弧線。隙間△除去。上側面文様	
453	岩	大橋	岩版	A1?	台形??・5類	1/6	4			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2731	正中線対向多重弧線。隙間△沈線。厚さ1.3cm	
454	岩	大橋	岩版	A1?	?・5類	1/7	4			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2732	対向多重弧線。厚さ1.1cm	
455	岩	大橋	岩版	A2?	方形?・5-6類	1/8	3.1			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2733	対向多重方形弧線二段。側面沈線	
456	岩	大橋	岩版	A1?	方形?・5類	1/8	3.8			凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2734	対向多重弧線一部角張る。厚さ1cm	
457	岩	大橋	岩版	A1?	方形?・5類	1/6	2.7			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2735	正中線。対向多重弧線。厚さ0.8cm	
458	岩	大橋	岩版??	C1?	多角形?・3類??	不明	7.4			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2736	片面渦巻C字入組文(雲形文)。厚さ2.7cm	
459	岩	大橋	線刻礫?	不明	不整円形・非KO	完形	6.8			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2740	片面十字。片面直線陰刻。擦痕。厚さ2cm。121g	
460	岩	大橋	線刻礫?	不明	?・非KO	小片	5			凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2741	浅い平行線。直交する線。裏面剥落	
461	岩	大橋	線刻礫?	不明	不整六角形・非KO	完形	5.6			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2743	片面十字状線刻。厚ささる? 厚さ3.5cm。152g	
462	岩	大橋	線刻礫?	不明	?・非KO	小片	8.5			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2745	浅い線刻(直線)。裏面剥落。盲孔?	
463	岩	大橋	線刻礫?	不明	?・非KO	小片	3.2			凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2746	太い線刻。直線と曲線。裏面剥落	
464	岩	大橋	線刻礫?	不明	不整半円形・非KO	4/5	9			緑色凝灰岩	盛土	扇端	半?	県埋06→2747	線刻。擦痕? 縁辺打欠	
465	岩	大橋	線刻礫?	不明	?・非KO	小片	4.8			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2748	直線線刻。裏面剥落	
466	岩	大橋	線刻礫?	不明	隅丸長方形?・非KO	不明	10			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2749	盲孔? 敲打痕? 擦痕。縁辺打欠。凹石?	
467	岩	大橋	線刻礫?	不明	長楕円形・非KO	不明	10.6			緑色凝灰岩		扇端	半?	県埋06→2751	盲孔? 敲打痕? 擦痕。凹石?	
468	岩	大橋	土版	A1?	隅丸方形?・5類	1/5	3.3					扇端	半?	県埋06→2453	正中線。対向多重弧線。三叉文。側面沈線	
469	岩	大橋	土版	A2?	隅丸方形・5-6類	1/5	4.3					扇端	半?	県埋06→2454	表裏対向方形多重弧線。厚さ1.3cm	
470	岩	大橋	土版	A1?	胴張方形?・5類?	1/4	2.1				盛土	扇端	半?	県埋06→2455	表裏多重鋸歯文。厚さ0.9cm	
471	岩	大橋	土版	A1?	隅丸方形・5類	1/8	3.7					扇端	半?	県埋06→2457	正中線。対向多重弧線。裏面剥離	
472	岩	大橋	土版	A1?	隅丸方形・5類	1/6	4.3			★隅貫通孔		扇端	半?	県埋06→2458	対向多重弧線。上端水平沈線。沈線沿う刺突列	
473	岩	大橋	土版	C2古?	隅丸方形・4類?	1/4	6.3			★光沢優品	盛土	扇端	半?	県埋06→2459	雲形様C字入組文。側面沈線。丁字。厚さ1.1cm	
474	岩	大橋	土版	A1?	方形・5類	1/4	6.3			側面沈線		扇端	半?	県埋06→2460	正中刺痕列。対向多重弧線。裏、工字文	
475	岩	大橋	美々中?	C2??	首突起羽大・無文	4/5	8.2			中空	盛土	扇端	半?	県埋06→2452	首肛門貫通孔。正中隆帯刻目、乳→正中中空?	
476	岩	大橋	美々中?	初?	手破片?	小片	3.8					扇端	半?	県埋06→2456	縄文地沈線文。手先刻目列	
477	岩	九年橋	岩版	A1?	楕円形?・5類	1/4	9.7			凝灰岩質泥岩		堤防	半撻	北上77→PL14-4	対向多重弧線二段。磨耗。裏面剥落	
478	岩	九年橋	岩版	C2	?・4類	小片	3.2			?		堤防	半撻	北上77→PL14-5	磨耗。裏面剥落。渦巻文?	



岩手県立博物館研究報告 第33号 2016年3月

No.	県	遺跡名	種別	時期	形態・系列・形状	残存率	現長cm	接合	付着物	材質	出土位置	遺跡	掲載箇所	備考
									赤 黒	(つくり製作)		地 評価		
479	岩	九年橋	岩版	BC	楕円形・2類	1/2	2.8			凝灰岩質泥岩		堤防	半掘 北上77→PL146	磨耗? 文様消えかかる。表裏正中線脇C~S文
480	岩	九年橋	土版	A1?	楕円形・5類?	略完	5.6					堤防	半掘 北上77→PL21-1	表裏中央平行線内刺痕列、対向多重弧線二段
481	岩	九年橋	土版	不明	隅丸長方形・非KO	完形	10.1					堤防	半掘 北上78→PL71-1	表裏無文。厚さ1.4cm。表面凹凸、磨耗?
482	岩	九年橋	土版	A1?	隅丸方形?・5類?	1/4	5.8					堤防	半掘 北上78→PL71-2	正中刺突列端隅形文。対向多重弧線
483	岩	九年橋	土版	A1?	隅丸長方形・5類	3/4	8.6					堤防	半掘 北上78→PL71-3	磨耗。正中線片端直交線。対向多重弧線二段
484	岩	九年橋	土版	A2?	隅丸方形?・5-6類	1/4	6.5					堤防	半掘 北上78→PL71-4	磨耗。正中刺目列。対向多重弧線に角
485	岩	九年橋	岩版??	不明	円形・非KO	略完	5.4		全面	泥岩質		堤防	半掘 北上79→PL124-1	写真無。表裏数珠の沈刻。側面刻目列
486	岩	九年橋	土版	A1?	胴張長方形・5類	1/4	5.3					堤防	半掘 北上79→PL129-1	正中線対向多重弧線。一部刺痕列。厚さ1.4cm
487	岩	九年橋	土版	A1	胴張長方形・5類?	1/5	6		○			堤防	半掘 北上79→PL129-2	★表裏工字文(方向異)。端刻目列。厚さ1.1cm
488	岩	九年橋	土版	A2?	隅丸長方形・5-6類	1/4	3.5	△	○			堤防	半掘 北上79→PL129-3	対向多重方形弧線。側面沈線と刺突列。註13
489	岩	九年橋	土版	A1?	?・5類	1/7	3.4					堤防	半掘 北上80→PL188-1	写真無。正中刺痕列。対向多重弧線?
490	岩	九年橋	土版	A1?	胴張長方形・5類	3/5	9	△	○			堤防	半掘 北上84→PL242-1	正中沈線間刺突列。対向多重弧線二段。註14
491	岩	九年橋	土版	A1?	胴張長方形・5類	1/4	6.1					堤防	半掘 北上84→PL242-2	首孔。対向多重弧線。PL344-1と同一個体?
492	岩	九年橋	土版	A`古?	長方形?・6類	1/4	5	△				堤防	半掘 北上84→PL242-4	正中線挟んで多重方形弧線(一部直線)
493	岩	九年橋	岩版	C2	楕円形・4類	2/3	8					堤防	半掘 北上85→PL291-3	表正中線両脇渦巻文。裏入組文。文様浅い
494	岩	九年橋	岩版	A1?	?・5類	小片	2.3		○			堤防	半掘 北上85→PL291-4	対向多重弧線側面まで。磨耗? 沈線浅い
495	岩	九年橋	岩版	A1	隅丸長方形・5類?	1/7	3					堤防	半掘 北上85→PL291-5	★表裏工字文(方向異)。厚さ1.1cm
496	岩	九年橋	土版	A1?	隅丸方形?・5類	1/9	3.5					堤防	半掘 北上85→PL296-2	写真無。対向多重弧線
497	岩	九年橋	土版	A2?	?・6類?	1/9	5.1		○			堤防	半掘 北上85→PL296-3	正中沈線間刺目列。対向多重方形弧線
498	岩	九年橋	正中中空	A?	円形首突出正中線	首欠	11.8					堤防	半掘 北上85→PL296-5	正中、縁刻目隆帯。対向多重門内流水工字文
499	岩	九年橋	岩版	C2?	隅丸長方形・4類?	1/5	6.1					堤防	半掘 北上86→PL342-2	二段渦巻文? 側面も文様。磨耗ひどい
500	岩	九年橋	岩版	A1?	?・5類	1/4	4.8					堤防	半掘 北上86→PL342-4	正中線。対向多重弧線二段側面まで。★厚さ3cm
501	岩	九年橋	岩版??	不明	楕円形・非KO	2/5	5.8					堤防	半掘 北上86→PL342-5	擦痕? 縁刻? 十字意匠? 岩版でない??
502	岩	九年橋	土版	A1?	隅丸長方形・5類	1/7	5.1					堤防	半掘 北上86→PL344-1	対向多重弧線。厚さ1.1cm。PL242-2と同一?
503	岩	九年橋	土版	A1?	隅丸長方形・5類	4/5	4.2					堤防	半掘 北上86→PL344-2	正中刺目、表2、裏1列。対向多重弧線二段
504	岩	九年橋	土版	A1?	胴張長方形・5類	3/7	3.5		○			堤防	半掘 北上86→PL344-3	正中線対向多重弧線。上端側面刺突列
505	岩	九年橋	土版?	A1??	?・5類??	小片	3					堤防	半掘 北上86→PL344-4	首孔。対向多重弧線。上端側面沈線。裏不明
506	岩	九年橋	土版?	不明	?・?	小片	3.2					堤防	半掘 北上86→PL344-6	放射状多重線。厚さ1.5cm
507	岩	九年橋	土版	A1?	?・5類?	1/8	5.8		○			堤防	半掘 北上87→PL414-1	凹凸。多重弧線? △区画。側面刺痕列。註16
508	岩	九年橋	岩版	A1?	隅丸長方形・5類	1/4	7					堤防	半掘 北上87→PL414-2	断面紡錘形。正中線対向多重弧線隙間三叉文
509	岩	九年橋	土版	C2中?	隅丸方形・4-5類?	4/9	5					堤防	半掘 北上87→PL414-3	文様2~3重線。二段? 中央入組文、隅弧線
510	岩	九年橋	土版??	A1??	隅丸方形・5類?	2/9	4.6					堤防	半掘 北上87→PL414-4	正中刺突列、他文様も。註17。対向多重弧線?
511	岩	九年橋	岩版	A1?	隅丸長方形・5類	4/9	4.5					堤防	半掘 北上87→PL414-5	表対向多重弧線間三叉文。裏△他彫去。註18
512	岩	九年橋	土版	A1?	?・5類?	1/10	3.9					堤防	半掘 北上87→PL414-6	対向多重弧線?
513	岩	九年橋	土版	A1?	?・5類	1/4	3.8					堤防	半掘 北上87→PL414-7	表面剥落。対向多重弧線二段?
514	岩	九年橋	土版	A1?	胴張長方形?・5類?	1/4	6.5		○			堤防	半掘 北上87→PL414-8	対向? 3本弧線。つ字文。側面沈線
515	岩	九年橋	土版	A2??	?・5-6類	1/5	2.8					堤防	半掘 PL414-10	対向多重方形弧線。厚さ0.6cm
516	岩	九年橋	土版??	A`?	糸巻形・6類?	一欠	2.5					堤防	半掘 PL414-11	四隅貫通孔。正中線挟んで多重沈線
517	岩	九年橋	土版?	不明	?・多重線	小片	1.8					堤防	半掘 PL414-12	写真無。縦位多重線
518	岩	九年橋	美々中空	BC?	?・S字文多	1/2	8?	△				堤防	半掘 北上87→PL413-7	磨耗。側面刻目。11次写真図版では接合
519	岩	九年橋	土版	A?	胴張長方形?・有文	1/3	4.5					堤防	半掘 北上88→PL473-1	表聖山系入組文。裏流水工字文?
520	岩	九年橋	土版	A1?	?・5類	小片	2.8					堤防	半掘 北上88→PL473-2	対向多重弧線(側面も)、隙間三叉文。厚さ0.8cm
521	岩	九年橋	土版	A1?	隅丸長方形・5類	3/7	5					堤防	半掘 北上88→PL473-3	正中刺痕列に三叉文接続。対向多重弧線
522	岩	九年橋	土版	A1?	小楕円形?・5類?	3/10	2.7					堤防	半掘 北上88→PL473-4	写真無。表対向多重弧線。裏多重平行線。
523	岩	九年橋	土版	A1?	隅丸方形・5類	2/7	7.3		○			堤防	半掘 北上88→PL473-5	★眉鼻、目
524	岩	九年橋	土版	A1?	長方形?・有文	4/5	7.3					堤防	半掘 北上88→PL473-6	表裏工字文。上面文様(欠損で不明)
525	岩	九年橋	土版	A1?	隅丸方形・5類	5/9	9		○			堤防	半掘 北上88→PL473-7	表正中線対向多重弧線二段。裏工字文貼付
526	岩	九年橋	土版	A1?	胴張方形・5類	5/9	7.5	△	○			堤防	半掘 北上88→PL474-1	表裏正中線対向多重弧線二段。文様刺痕。註19
527	岩	九年橋	土版	晩後?	楕円形?・有文	1/8	4.5					堤防	半掘 北上88→PL474-2	★貫通孔隆未貫通孔。刺突列。註20
528	岩	九年橋	土版	A1?	★方形突出部・5類	1/4	4.3					堤防	半掘 北上88→PL474-3	対向多重弧線、刺突列沿う。断面紡錘形
529	岩	九年橋	土版	A2?	隅丸長方形・6類	1/3	8.8		○			堤防	半掘 北上88→PL474-4	対向多重方形弧線二段
530	岩	九年橋	土版	A2??	隅丸長方形・5-6類	3/8	4.8	○				堤防	半掘 北上88→PL474-5	表対向多重方形弧線二段。裏工字文。註21
531	岩	九年橋	土版	A`古?	隅丸長方形・6類?	3/8	5.5	○				堤防	半掘 北上88→PL474-6	正中線? 多重平行線異方向組み合わせ。註22
532	岩	九年橋	土面??	~A1?	楕円形縁貫通孔3	不明	6.8	○	割口	側面沈線		堤防	半掘 北上91→PL560-8	下記例との類似から土面と判断。曲線沈線文様
533	岩	九年橋	土面?	~A1?	上辺直線縁貫通孔4	不明	8.2	○		隅貫通孔大		堤防	半掘 北上91→PL560-9	裏面平ら。目縁、眉刻目隆帯。曲線沈線文様
534	岩	九年橋	岩版	不明	円形・非KO	2/3	4.9					堤防	半掘 北上91→PL560-3	片面首孔から正中線。擦痕。「中央敲打痕」
535	岩	九年橋	土版	A1?	方形・5類?	1/8	2.8					堤防	半掘 北上91→PL560-7	対向多重弧線? 側面沈線。刺痕列?
536	秋	前通	岩版	A1?	雫~卵形?・5類	3/10	7.7					扇端	半掘 県教03→52図1	写真無。表裏正中線対向多重弧線三段。首孔
537	秋	前通	岩版	A1?	隅丸長方形・5類	3/8	7.8		●			扇端	半掘 県教03→52図2	写真無。表裏正中線対向多重弧線二段。△文
538	秋	前通	岩版	A1?	楕円形?・5類?	1/3	7.7					扇端	半掘 県教03→52図3	写真無。表裏各縁に沿う多重弧線。厚さ3cm
539	秋	前通	岩版	A1?	楕円形・5類?	1/3	4.8					扇端	半掘 県教03→52図4	写真無。表のみ正中線対向二重弧線一箇所
540	秋	前通	岩版	A1?	雫~卵形・5類	7/9	5.2					扇端	半掘 県教03→52図5	写真無。表裏正中線対向多重弧線二段
541	秋	前通	岩版	A1?	雫形・5類?	略完	10.2					扇端	半掘 県教03→52図6	写真無。表裏正中線。多重鋸歯文。★敲打痕
542	秋	前通	線刻礫	不明	円形・沈線首孔	完形	5.3					扇端	半掘 県教03→53図5	写真無。片面V沈線。片面首孔。重さ43g
543	秋	前通	土版	A1?	方形?・5類	1/5	7					扇端	半掘 県教03→52図7	写真無。表裏対向多重弧線。厚さ1.7cm
544	宮	香ノ木	岩版	A1?	隅丸方形?・5類	1/4	4.4					丘陵	半? 県教85→24図14	正中線。対向多重弧線。下面工字文系三叉文
545	宮	里浜貝塚	岩版	C2古?	?・3-4類	不明	10.7					丘陵	註23 東歴84→図27-1	表正中線挟んで対向入組C字文内擦痕、裏線刻
546	宮	里浜貝塚	岩版	C2古?	胴張方形?・4類?	不明	3.5					丘陵	註23 東歴84→図27-2	表正中線挟んで対向渦巻文?、裏不定線刻
547	宮	里浜貝塚	線刻礫	C2古?	不整楕円形?	不明	7					丘陵	註23 東歴84→図27-3	断面V字線刻。意匠不明
548	宮	里浜貝塚	線刻礫	C2古?	楕円形	不明	6					丘陵	註23 東歴84→図27-4	断面V字線刻。意匠不明
549	宮	里浜貝塚	線刻礫	C2古?	?	不明	4.3					丘陵	註23 東歴84→図28-5	断面V字線刻。意匠不明
550	宮	里浜貝塚	線刻礫	C2古?	?	不明	4.2					丘陵	註23 東歴84→図28-6	断面V字線刻。意匠不明
551	宮	里浜貝塚	線刻礫	C2古?	?	不明	7.3					丘陵	註23 東歴84→図28-7	断面V字線刻。意匠不明

大洞C1式新期までがほとんどを占め、掲載土器を見る限り、この間量的に大きな変化は読み取れない。遺構篇の報告書にも遺構内出土土器が掲載されているが、同様の傾向が見られる。公開のため先送りした3,000㎡に及ぶ配石下部および礫層群の補足調査の結果（秋田県教育委員会2009）を見ると、破片が主体ながら、同様の出土傾向を示している。

個々の土製品および岩版の点数が記されていないため正確な組成は不明だが、土偶は23点、土版1点、岩版21+1点が掲載され、岩偶は2点（上述）、石棒・石剣類は146+12点、石冠2点出土し、その他、円盤状石製品90+3点、異形石器54点、玉類・ボタン状石製品（曲皿形。大洞BC2式）（金子2010a）等の有孔石製品が29+1点が出土し、土製耳栓（片端大・臼状系列。大洞BC2式？）（金子2009a）2点、土製丸玉1+1点などが掲載されている。出土点数は報告書記載により、+○は、後の調査報告書（2009）掲載分である。なお、遺構篇（2003）に、土坑から出土した土製玉1、石製玉14、石剣類4点掲載されている。明らかに石製品の出土が多い。

細かい時期の特定できる土偶を見ると（金子2014b：pp.18～19）、あまり優品ではないが大型の遮光器土偶も約7点出土している。大洞B2式に相当するものはなく、大洞C1式を中心にした時期のものが多いが、岩偶、岩版も同様であった。

表の補足。報告書（秋田県教育委員会2004）第294図1を、「末端中央部には脚部を意識した作り出しをしている」（p.322）ことから「岩偶」とする。確かに片端に削り込みはあるが全体として石質（安山岩）も含めて独銛石に良く似ており、非馬淵川型も含め当該期の岩偶に全く類例を求めることはできない。あえて言うならば「人形石製品」だが、人には見えない。“その他”の石製品に含め“人に見立てることも不可能ではない”程度にとどめておくのがふさわしいと思う。

#### ・秋田県旧森吉町向様田D遺跡（第1次）（第1表87～103）

稲野（1983）に顕著でない、入り組まないで重ねるC字文基調の文様が多く、S字文はほとんど見られず2類と明確に特定できない。近接する向様田A遺跡にも同様のものが出土しているが、より後出のものが多いせい、それほど目立たない。薄さについても同様で、D遺跡には薄いものが目立つがA遺跡はさほどではない。ただし、古いものは薄めである。関連遺物の

組成については、第2次調査の後に記す。

#### ・秋田県旧森吉町向様田D遺跡（第2次）（第1表104～121）

工事用道路下に続いていた部分500㎡の追加調査である（秋田県教育委員会2010）。

二次分を合わせた石製品、土製品の内訳は、第2次報告書第6表に示されている。なぜか1次調査で出土した土製耳飾、土玉が0点になっているなど明らかな間違いを訂正し、上述の変更を加味して示すと、土偶74点、岩版38点、土版3点、石剣類78点、その他、円盤状石製品45点、土製耳飾3点（片端大・臼状系列2点=BC2式期中心。ネジ前系列1点=C1～2式前半期）（金子2009a、2010d）、土製丸玉2点、弧状土製品1点（第二段階=BC1～2式期）、石製勾玉4点、石製丸玉59点などがある。土偶は、大型遮光器土偶らしきものが7点（B2?1、BC11?、BC23?、C1古2点）ほど出土しているが、優品はない。x字形土偶や小型遮光器土偶もあるが、在地の土偶が比較的多い（金子2014b：pp.19）。時期は、中葉を中心にし、大洞B2式期は少ない。

東-北-西側を山地に囲まれ南側を小又川に画された盆地のような平地に向様田遺跡群は位置し、小又川に面する低位の河岸段丘上に向様田F、B、A、D遺跡が東から西に（上流から下流に）連なっている。各遺跡の間には沢が入り込む。ただし、向様田DとAの間には現在沢が認められず、似た性格を持ち一連の遺跡と想定されるが、間に埋没沢があるため別遺跡として登録されている。B遺跡の南側、小又川の間狭小なさらに低位の段丘には向様田C遺跡があり、山地との間の狭小な高位の段丘には向様田E遺跡がある。

晩期に限ると、向様田A、D遺跡で大洞B2～C2式期の大規模な捨て場が認められ、ここが拠点集落と考えられる。その他の遺跡では格段に出土量が限られるが、B、C遺跡では、後期中葉を主体としながらも、大洞BC2～C2式土器が出土している。高位の向様田E遺跡でも、大洞B2?、C2式土器が出土している。A、D遺跡以外での土、石製品の出土は僅かだが、B遺跡で岩偶形土偶1点出土し、C遺跡では、後期中葉の可能性も残すが、石剣類が10片出土している。

表の補足。報告書第95図1を「岩偶」としているが、厚みがあり括れを持つ以外に、他の岩版との違いはなく、目や顔等人と見立てる必然性が全く認められず、まして規格的な馬淵川型との共通性は全くない。ここ

では岩版の仲間として扱いたい。報告書第97図2は、「線刻礫」とされている。写真不掲載のためはっきりしないが、無加工の自然礫のようで、線刻も意図的かどうか。本稿では割愛する。

#### ・秋田県秋田市戸平川遺跡（第1表122～130）

経過は不明だが整理作業は十分でなかったようで（秋田県教育委員会2000：p.12ほか）、最も出土量の多いC区（沢）を中心に報告されている。土器・石器以外の全体量が不明のため、掲載遺物がどの程度実態を反映しているのか不明だが、以下掲載遺物の組成を記す。土偶43（x字形15）点、土面（遮光器型～土面型）3点、岩版2点、土版3点、正中線中空土版変形1点、石剣類25点、石冠7点、円盤状石製品106点。その他に、球状土製品1点、土製耳栓11点、弧状土製品4点、ボタン状石製品（弱腕型）1点、石製丸玉15点、石製勾玉4点、土製丸～平玉6点などがある。「円形土製品」（報告書：p.88）とされた遺物が10点出土しているが、無文で実用品らしく思われる。沢に捨て場が形成されていたため、漆塗飾18点、腕輪1点などが出土している。球状土製品や円筒上層b式期の土器埋設遺構など、単純な遺跡ではないが、上記遺物で型式学的に時期の特定できるものは一土偶の一部（金子2014b：第6表3198～3240）、弧状土製品（金子2009b：第7図12b）を除いて一ほとんど全て晚期、それも中葉である。掲載土器も、大洞C1式古期（報告書：第53図1、第55図2）、大洞C2式第Ⅲ段階（同：第73図1、写真図版46上段）、同第Ⅴ段階（同：第78図9、写真図版45上段8?）、大洞A1式期（同：第76図5、写真図版45上段9、10ほか、46下段12以外）、大洞A2式期（同：写真図版45上段11）という他時期も見られるが、ほとんどが大洞C1式新期～大洞C2式第Ⅱ段階である。

#### ・秋田県旧増田町平鹿遺跡（第1表131～138）

出土点数が全く書かれていないので不明だが、整理期間が十分でなかったようで（秋田県教育委員会1983：p.134）、選別が行われている可能性が高い。一応掲載遺物の組成を示す。掲載縄文土器は、大洞BC2式（第117図14?、第136図116）や大洞C1式（同：第39図、第59図、第98図の1、2?、3、4、5?、6～8）も見られるが、ほとんどが大洞C2～A1式である。ただし、弥生土器も少ないが前期末から後期まであり、特に前期末は比較的まとまっている。

報告書では、各遺構ごと、遺構外とバラバラに記載

されているが、本稿では全て一括して集計した。なお、SX009捨て場は、報告書にもあるように（p.133）ほぼ大洞A1式期に限定されるようなので（註1）、この遺構だけ先に別途示す。掲載遺物は、結髪土偶1点、土版1点、有角石斧?1点で、その他、特筆すべきは「完形品だけで総計664個の装飾品類が発見された」（報告書：p.133）。装飾品類とは、碧玉製勾玉1点、凝灰岩製等小玉75点、土製耳栓29点、土製小玉554点、土製管玉4点などである（報告書：第5表）。

その他の遺構と遺構外では、土偶15点（大型遮光器系列主体だが、結髪、刺突文土偶も）（註2）、岩版・線刻礫?2点、土版6点（弥生時代2点）、石剣類39点、独鈷石約14点、土冠1点、その他、円盤状石製品6点、ボタン状石製品1点（大洞C2式新期～大洞A1式期）、石製勾玉2点、石製丸玉4点、土製玉類3点などである。

#### ・秋田県秋田市狸崎A遺跡（第1表139）

堅穴住居跡も検出されているが、遺構外も含め掲載遺物が極めて少ない。住居跡が削平されていること、調査範囲が極めて限定的なことや南側にあった沢を調査していないことなどが関係するのかもしれない。土坑墓は28基検出されている。掲載土器は小破片が中心で不明瞭だが、晩期は大洞A1式がほとんどを占める。縄文時代前期末や弥生時代中期中葉の堅穴住居跡も検出されている。墓がほとんどを占めるため、装身具以外の土・石製品は少ない。土版1点、石剣類1点、石冠2点、その他、土製耳栓（角張ったC2ネジ形）7点、土製小玉35（瓢箪11）点、石製丸玉19（ヒスイ8）点、石製勾玉?1点（ヒスイ）、石製管玉?1点（ヒスイ）が出土している。

#### ・秋田県旧湯沢市釜田遺跡（第1表140～146）

1973年のほ場整備に伴う限られた調査で（480㎡）、どの程度の整理作業が行われ遺物が掲載されているのか不明である（秋田県教育委員会1974）。掲載土器は、大洞A1式から砂沢式新期併行期（報告書：第9図12～16）まで認められる。土偶11点（図示10+写真のみ1。大洞A1式期の結髪土偶がほとんど）（金子2011a）に手足のみの破片が10点ほど出土しているそうである（報告書：p.20）。岩版2点、線刻礫1点。土版は、文章記載がある（第1表）のは4点のみだが、写真ではさらに2点（報告書：第15図4、5）、図では6点掲載されている（遺物実測図4。全て6類の対向方形弧）が、報告書では、B地点の1点他（p.22）、

A地点では「完型品が2個、半分程度の破片が1個、1/3未満の破片は10個近くも出土している」（p.21）とある。石剣類5点（図示は10点ある）、独銚石1点（隆起帯間アスファルト。砂沢式併行期？）、環状石斧1点、多頭環状石斧1点（砂沢式併行期？）。装飾品として、土製耳飾約10点で、うち耳栓7（角張ったC2ネジ形6）、土製小玉約30数個（瓢箪型多）、木製漆塗櫛2点（以上報告書p.22）、緑泥片岩製白玉8点（以上報告書p.24）。

#### ・秋田県大館市諏訪台C遺跡

縄文時代前期の竪穴住居跡が検出され、後期前葉前半の土器がまとまって出土しているが（秋田県教育委員会1990）、晩期以降は、僅かな大洞B2式土器を除けば、ほとんどが弥生時代前期末～中期初頭に限られる。当該期の組成を垣間見るため選んだのだが、土偶1点、円盤状石製品10点以外の該当遺物の出土はなく、表に示すまで至らなかった。ちなみに、縄文時代後期前葉に属すると思われる土器・石器以外の土・石製品も、土偶1点のみなので混同している恐れもない。削平・攪乱を受けているとはいえ6棟もの竪穴住居跡が検出され、破片から完形に近い土器まで比較的多く掲載されているのに、どういうことであろうか。

秋田市地蔵田B遺跡も同様の遺跡で（秋田市教育委員会1986）、土器の出土量の割に当該遺物の出土は極めて少ない。縄文時代晩期末～弥生時代中期の集落跡で、それでも、こちらは土偶25点（金子2011a）、独銚石2点、環状石斧2点出土しているが、後期前葉の土器や土製品も多く、石剣類や石製玉類がどちらに帰属するかわからないため、今回扱うのを断念した。

### 3 大洞BC2式期を中心とした遺跡

#### ・青森県田子町石亀遺跡（第2表147～177）

岩偶は12点出土し全て掲載され、岩版は28点出土のうち19点だけ図示されている。

報告書（財古代学協会1997）掲載土器を見る限り、後期末瘤付5期～晩期中葉大洞C2式古期が認められ、大洞BC2式をピークとして、漸増、減を経るといってわかりやすい傾向を示す。21点出土した土偶は、14点だけ図示され（報告書：p.153）、大型遮光器土偶らしいものは3点のみで（岩偶と併存）、後期末～晩期初頭にわたり、一時期の点数は僅かである（金子2014b：p.11）。その他、石剣9点、独銚石1点、円盤状石製品46+6点、石製勾玉1点、石製丸玉5点、土

製耳栓3点、土製丸玉1点など。後期末～晩期初頭土器を出土しながら当該期の滑車形耳飾は見られず、大洞BC2～C1式期の耳栓のみである（金子2009a：pp.176～177）。

#### ・青森県三戸町泉山遺跡（第2表178～227）

中期や後期の土・石製品も混じっているのが正確でないが、土偶約134点、岩版・線刻礫約45点、土版0点、美々中空土製品2点、正中線中空土版約3点、石棒・石剣類約140点、大洞B2式期の有孔球状土製品1点、その他、臼～鼓状（金子2009a）土製耳栓7点、土製腰飾り？（鏝型土製品）（金子2011b）5点、土製腕輪？4点、菱形環状石製品3点、土製玉十数弱（第Ⅲ段階花卉丸玉1点）（金子2011c）、ボタン状石製品2点ほか石製玉約8点を含む孔垂飾数十点、円盤状石製品200～300点などが出土している。

表の補足。遺構外から2点岩版が出土したとあるが（青森県教育委員会1996：p.9）、見つけることはできなかった。報告書第128図38は凹石と判断して割愛した。同第128図41は円盤状石製品と判断して割愛した。同第128図44は38と同じくらいの厚さがあり（2.6cm）、凹石の破片の可能性があるため割愛した。同第128図47は、写真がないので不確かだが、他と異なり片面が窪んでいて砥石や凹石等の可能性があるため割愛した。第129図54の写真を見ると擦痕（使用痕）は砥石のそれであり割愛した。同49～53は、写真がなく確かなことは言えないが、その使用痕はいずれも利器のそれに見え、磨石等とみなして割愛した。

#### ・岩手県二戸市雨滝遺跡（第2表228～258）

明治大学調査分は報告書が出ていないので割愛し、2008年調査398㎡分の報告書（財岩手県文化振興事業団2010）のみを対象にした。掲載土器を見ると、当該期では大洞BC2～C1式がほとんどを占めるが、大洞C2式第Ⅰ段階も含む（報告書：第70図366ほか）。大洞B2～BC1式は僅かで（報告書：第42図70、第43図78）、それ以前はほとんどないが、瘤6期小片1点のみ見られ（第80図）、後期前葉土器が少量出土している。組成は、土偶57（金子2014b）、岩偶2、岩版24、土版2、美々4中空土製品1点、その他、石剣類19、円盤状石製品17点、装飾品として、ボタン状石製品（Ⅲa類？）1、土製耳栓3、土製勾玉、土製管玉2？点などが出土している。

表の補足。報告書第108図974は、写真を見る限り岩偶とは思われないので割愛した。写真図版105の982

は、無文の小片で、報告者も「岩版？」として扱っているため (p.188) 実測図がなく、詳細不明なので割愛した。第109図995は、砥石と判断して割愛した。写真図版106の1002は極めて小さい無文の破片で実測図もないため割愛した。同1003も実測図がなく、軽石製で文様もないので割愛した。

#### ・岩手県旧安代町曲田 I 遺跡 (第2表259~260)

約10万点の土器が出土したそうだが (助岩手県埋蔵文化財センター1985: 第2分冊p.131)、その量を推し量るのは難しい。ただし、晩期前葉の土器が圧倒的多数を占めたことはわかる。掲載土器を見ると、当該期では、後期後葉壠1期? (報告書: 第1分冊第74図429) ~晩期中葉大洞C2式前半期 (同: 第2分冊第82図2308) まで継続しているようだが、そのほとんどは大洞B2式~大洞BC2式である。

土器以外の出土遺物は、石器 (2,075点) も含めて極めて少ない。最も多いのは「石匙を含めたスクレーパー類で130点以上」「次いで円盤状石製品」である (報告書: 第2分冊p.145)。50棟を超す晩期前葉の竪穴住居跡が検出されているのに、いかがしたことであろうか。土偶7点 (晩期前葉大遮3、後期後葉2、不明1、土偶? 1)、岩版1点、正中線中空土版1点、石剣類約20点、ボタン状石製品1点 (I a類=大洞B1式期) (金子2010a)、円盤状石製品80点などが出土している。装身具も僅かである。石剣類は、無文の小片が多くを占めるが、有文の小片が1点ある (報告書: 第2分冊第56図2077)。また、場所柄日本海側に多い柏子所系列 (中央に凹みを持ち両端が尖っているもの) が見られる (報告書: 第2分冊第43図1911)。

#### ・岩手県旧都南村手代森遺跡 (第2表261~293)

村の教育委員会でも、小学校グラウンド造成で、より高位の部分で調査したが (都南村教育委員会1986)、時期を異にして晩期末~弥生時代前期を主体とし、さらには実測土器以外掲載されていないので割愛した。掲載縄文・弥生土器は、縄文時代前期の繊維土器を除くと、後期後葉~晩期後葉土器で、大洞BC2式期をピークとして、そこから離れるに従って量を減らし、大洞B1式期以前、大洞C2式後半以後は僅かである。

土偶201点 (時期は概ね土器型式の組成に比例)、岩版類約17点 (大洞BC2式期に偏る?)、土版6点 (時期幅広い)、美々中空土製品類9点、動物型土製品1点、石剣類197点、石冠6点、独鈷石5点、円盤状石製品2,511点、その他、土製耳飾約7点、球状土製品

1点 (大洞BC2式期の蔓状C字文)、菱形環状石製品1点 (長菱形。晩期前葉) (金子2010b)、ボタン状石製品3点 (平皿~曲皿形。大洞BC1~2式期) (金子2010a) などが出土している。

報告者は、方形の岩版は、擦切り作業の後に整形したもの、楕円形のもの、自然礫を研磨したものと考えている (助岩手県文化振興事業団1986: p.303)。また、文様は「両面で異なるものが多く、その際正中線のない面の文様は不規則で簡略されたものが多く」、「1つの文様は非常に細かい線刻が何度も繰返されてきている。このことは岩版への施文が決して容易な作業ではなかったことを意味して」いる (同上) とする。

「蛇」とされた動物形土製品が二点あるが (同: 第167図2、3)、当該期に蛇は珍しく、また「頭部」とされる部分のみであり、他の土製品にも見えるので、本稿では割愛した。その他の「動物形土製品」とされるもの (同: 第167図4~8) のほとんどは、土器等の一部と思われるので割愛したい。

#### ・岩手県旧大迫町小田遺跡 (第2表294~298)

壠付Ⅲ段階~大洞A1式土器が掲載されているが、まとまっているのは大洞B2~C2式で、大洞BC2~C2式主体か。調査面積が230㎡と狭く、調査結果 (大迫町教育委員会1979) がどの程度全体を表しているか不安だが、その後に行われた内容確認調査 (トレンチ調査) でも、大洞C2式土器の割合が高いだけで、ほぼ同様の結果が得られている (大迫町教育委員会1990) (註3)。二つの調査併せて、土偶131点、線刻礫2点、岩版1点、「美々中空」3点、石剣類199点、その他、円盤状石製品190点、土製耳栓1点 (C2ネジ形。大洞C2後半~A1式) (金子2009a)、菱形環状石製品2点 (未成品1) (長菱形。大洞B2~C1式期) (金子2010b)、ボタン状石製品1点 (弱腕形=大洞C1式期) (金子2010a) などがあり、スプーン形土製品が15点出土しているのが注目される。土偶は、大洞BC2~C1式古期がほとんどで、それ以外は非常に少なく、小型遮光器土偶を主体とする (金子2010c)。

#### ・岩手県旧田尻町中沢目貝塚 (第2表299~300)

学術調査のため調査面積は30㎡にも満たないが、厚いところでは1mを超える堆積層を調査している (東北大学文学部考古学研究会1984、1995)。時期は晩期末から晩期中葉にわたるが、本稿で対象とした遺物は晩期前葉に限られたので (第1表)、以下の組成では、

装飾品等時期が特定できた遺物は、晩期前葉の点数に限った。流涙型土面1点、岩版？1点、その他に、石剣類十点程度、弧状土製品（腕輪？）1点、環状土製耳飾数点、土製耳栓1点、石製玉類数点、骨角製装飾品として、髪飾り数点、猪牙製垂飾1点、貝輪数十点などがある。当該期と特定できた土偶はなく、時期を特定できたのはほぼ全て後期である。

#### 4 大洞C2式期を中心とした遺跡

稲野彰子氏は、自己の岩版・土版の分類において「1～6類は時間的に連続するものであり、大洞諸型式の流れとおおよそ対応する」と述べている（稲野1983：注3）。そうすると、氏は明言しているわけではないが、5類は大洞A1式期、4類は大洞C2式期に相当する可能性が高い。本節および第3表は、大洞C2式期を中心とした遺跡を取り上げているので、4類が主体を占めるはずである。ところが、5類が多く4類が非常に少ないので、齟齬を生じていることになる。4類が多くを占めるのは今津、明戸遺跡だけで、第Ⅰ～Ⅱ段階土器が主体を占める遺跡である。第Ⅱ～Ⅲ段階が主体を占める前通遺跡でも5類のみである。青森県に多いという地域差や土器の量に岩版・土版が比例していない可能性もあり原因はいろいろ考えられるが、4類は大洞C2式土器第Ⅰ段階に限定され、それ以後大洞A1式期まで5類が存続する可能性が高い。第Ⅰ段階土器がほとんどを占める里浜貝塚西畑地点では、確かに4類が出土している。今後の調査の中で検討してみたい。

##### ・青森県旧平館村今津遺跡（第3表301～315）

縄文時代後期前葉集落と複合するが、当該期はほぼ大洞C2式のみである（青森県教育委員会1986）。第Ⅰ～Ⅱ段階がほとんどだが、第Ⅴ段階が僅かにあり（第41図5、第65図4、第73図12）、大洞A1式土器らしきものも僅かに見える（第73図13）。組成は、土偶19（接合前37点）、土面1、岩版12、土版2点、その他、石剣類8、土冠1点、装飾品には、弧状土製品2、石製勾玉1、石製丸玉6、土製勾玉6点などがある。鬲状三足土器が出土している（聖山式系の文様で第Ⅴ段階？）。円盤状石製品の報告はないようだ。

##### ・青森県十和田市明戸遺跡（第3表316～337）

五次にわたって調査されている。縄文時代前期末～中期前葉、後期前葉などとの複合遺跡で、地点により様相が異なり（十和田市教育委員会2010：第5章）、

晩期が主なのは第1次で（十和田市教育委員会1984）、4次地点でも遺物が出土しているが（青森県教育委員会2010）、他はほとんどない。なお、第1次地点では、試掘調査結果が「概報」（十和田市教育委員会1983）として報告されているので注意を要する。

昭和41年の試掘調査結果（大久保・澤田2009）も含め、すべての報告書を参照したが、掲載土器が少なく不明な点を残す。当該期では大洞C1～C2式を主体とし、大洞C2式は第Ⅱ段階以前の古い方が主なようだが、第Ⅴ段階も見える。大洞A1式以降はほとんど見えないが、大洞A1式古期も出土している（十和田市教育委員会1983：第9図版64）。大洞BC2式土器は比較的多く、大洞BC1式もあるが（青森県教育委員会2010：図92の6、7）、それ以前は見えない。

組成も全報告書当該期の集計で、土偶36、岩偶1、土面1？、岩版・線刻礫16、土版2、正中線中空土版1点、その他石剣類25点、円盤状石製品の報告はない。装飾品は、土製耳栓14、土製腕輪？1、石製勾玉2、石製丸玉4、土製勾玉1、土製丸玉1点等である。

##### ・岩手県盛岡市本宮熊堂A遺跡（第3表338～340）

十次以上の調査が行われている。周囲も含め古代の集落が主として展開する地域で、どの程度縄文時代の様相を残しているかわからない。また、一部隣接する本宮熊堂B遺跡に当該期の集落が広がるようである。出土土器は、大洞C2式第Ⅴ段階～A1式土器がほとんどを占めるが、大洞C2式前半土器も見られ、大洞A2式（助岩手県文化振興事業団2007：第32図71ほか）～大洞A1式古期は見えないが～大洞A1式新期（助岩手県文化振興事業団1998：第15図56、第24図92）、青木畑式（助岩手県文化振興事業団2007：第81図278、280）まで僅かながら継続して出土し、弥生時代中期や縄文時代後期中葉土器（助岩手県文化振興事業団2007：第79図254）も出土している。本稿では刊行されている全ての報告書を参照したが、当該遺物が出土しているのは限られる（助岩手県文化振興事業団1998、2004、2007）。

組成は、土偶18、岩版？1、土版2点で、その他に、石剣類13、独銛石2、円盤状石製品1点、装飾品は、ボタン状石製品1（Ⅲc類）、土製耳栓14（1点を除きC2ネジ形）、石製丸玉2、石製垂飾品1点である。隣接する本宮熊堂B遺跡からイノシシ形土製品の鼻が1点出土している（八木2006：図10）。円盤状石製品の報告はないようだ。

### ・岩手県紫波町城内遺跡 (第3表341)

出土量が不明な上「整理期間、費用が限られた中ですべての遺物の整理する事は、不可能であった」(紫波町教育委員会1985:p.9)とあり、どの程度実態を反映しているか不明だが、掲載遺物の状況をまとめておく。掲載土器は、大洞C2式第Ⅱ～Ⅲ段階がほとんどを占めるが、大洞BC2式(報告書:第18図1)、大洞C1式?(同:第17図14ほか)らしい土器片も見られる。組成は、土偶7、正中線中空土版1点、その他、石剣類6?、独銛石1、円盤状石製品1?点、装飾品としては、孔垂飾2点程度である。なお、報告書で土偶としている第27図5～8は、土器の注口、脚などと判断して割愛した。逆に、ミニチュア土器とされている第28図12は、大型土偶の脚と判断した。

### ・岩手県旧土鳥谷町安堵屋敷遺跡 (第3表342～363)

出土量も掲載基準も書かれていないため不明な点が残るが、掲載土器を見ると、大洞C2式第Ⅱ段階～大洞A1式がほとんどを占める。大洞BC2、C1式は見られるが、第Ⅰ段階は見えない。大洞A1式新期土器も掲載されている(助岩手県埋蔵文化財センター1984:DR42の5)。当該遺物も、一部掲載遺物ほどの程度出土点数を反映しているのか分からないが、土偶132+ $\alpha$ 、岩版1、土版12、正中線中空土版5、美々4中空土製品4点、その他、石剣類85、石冠2、土冠6、円盤状石製品70、装飾品は少なく、C2ネジ形土製耳栓(金子2009a)3点のみである。

表の補足。報告書DR136の3～7は、特定できないが、少なくとも一般的な土版から大きくかけ離れているので割愛した(5は美々4型中空土版の可能性を考えた)。DR137の9は、二重弧線が施されてパンツ状区画に似た表現が認められるが、異形で一般的な土版の形とかけ離れているので割愛した。DR138の1は、背面の縁に沿って二重弧線が連続して施され土版の可能性も窺われるが、乳房の貼付、刻目隆帯の正中線、その両側に施される多重弧線などから、大洞C2式大型遮光変土偶併行期の板状土偶と判断したいと思う。頭部が存在するか不安ではあるが。

### ・岩手県北上市大橋遺跡 (第3表364～476)

掲載土器を見ると、当該期では、大洞C2式前半を主体として大洞BC2式～A1式が多い。それ以前、以後は格段に少ないが、大洞A2式(219、658ほか)、大洞A1式新期～青木畑式(1003、1216、1217)も僅かにみられ、大洞BC1式以前も僅かながら継続して後

期前葉まで続く。土・石製品も不掲載品が多くあり晩期以前も含んでいるので、点数は正確ではないが、概ね当該期と思われる数字を探った。組成は、土偶203点+ $\alpha$ (金子2014b)、土面2、岩版102、岩版に含められていた短沈線による文様を持つ立体的な石製品4、土版7、美々4中空土製品2点、その他、石剣類100以上、石冠11、独銛石6点、装飾品として、土製耳飾12以上(耳栓8点は確実。無文環状不明。最大65点)、石製玉類(勾玉、丸玉)十数点、土製玉類3?、木製櫛1点などである。

表の補足。報告書(助岩手県文化振興事業団2006)第245図2737は、ブーメラン形で文様もなく通常の岩版からあまりにかけ離れているので割愛した。第246図2738、2739、2742、2744は、短沈線による文様は描かれているが、立体的で玉や筒形に近いので割愛した。同2752は、緑色凝灰岩製であるが文様もなく凹石と区別できないので割愛した。同2750は、花卉形でその浅く雑な下描状の文様・盲孔から、装飾品未成品の可能性が高いので割愛した。

### ・岩手県北上市九年橋遺跡 (第3表477～535)

大洞C2(第Ⅲ段階)～A1式土器が掲載土器のほとんどを占める。大洞C1式、A2式も比較的多く見られるが、後続する大洞A1式古期土器はほとんどない。これに対し、大洞BC2式土器は比較的多く、それ以前はさすがに破片がほとんどとなるが後期後葉まで遡る。

第3～11次調査の土・石製品の写真は、第11次調査報告書に掲載されている(北上市教育委員会1988)。なお、後に接合することがわかった資料については、表では片方を削除して1点として扱った(残存率は接合後のものである)。実際に被れる大きさの土面が出土しているが(第3表533)、これまであまり注目されてこなかったのはなぜだろうか。

組成は、最終報告である第10次報告(補遺)の総計(報告書:p.1)から点数を抜き出す。土面2、土偶686(大洞C1式期以前2?)、岩版13(大洞式前半数点)、土版47、正中線中空土版1、美々4中空土製品1点(晩期前葉)、その他に、石剣類622(無文ほとんど)、独銛石6、石冠4、土冠3、円盤状石製品765点、土製滑車形耳飾1(晩期中葉)、土製耳栓67(大洞式前半含む、菱形環状土製品1(大洞式前半)、石製垂飾9、石製玉類90、土製玉類214(白玉、瓢箪小玉多数)点、サメ歯5点などが出土している。多少古

い時期のものを含むが、概ね晩期中～後葉の組成を示しているのではないと思われる。多数を占める、土偶、石剣類、円盤状石製品の点数が拮抗しているのが注目される。装飾品以外では土版が比較的多い。

表の補足。第11次調査報告書掲載のPL472-8、9の異形土製品は、「亀形土製品の可能性が考えられ」（報告書：p.26）ているが、図と写真を見る限りそうは思えないので割愛した。

#### ・秋田県横手市前通遺跡（第3表536～543）

報告書（秋田県教育委員会2003）にほとんど記載がなく、出土量（点数）も掲載基準も全く不明で、全体像が全く掴めないが、掲載遺物に基づいて述べる。

掲載土器は、当該期では大洞C2式第Ⅱ～Ⅲ段階がほとんどを占め、大洞A1式も出土しているが、第Ⅳ～Ⅴ段階は見られないようである。大洞C1式らしい土器も出土しているようだが（報告書：第28図1、第31図3）、はっきりしない。当該遺物の組成は、土偶11、岩版・線刻礫7、土版1点、その他、石剣類30、土冠1、石製装飾品？1点である。

#### ・宮城県色麻町香ノ木遺跡（第3表544）

ほ場整備に伴う排水路に係る非常に長いトレンチ状の調査である。出土量が不明で、報告書（宮城県教育委員会1985）がどれだけ実態を反映しているかわからないが、掲載遺物の状況をまとめておく。掲載土器は、大洞C2式第Ⅲ段階が多く、第Ⅳ段階は見えないようだが、大洞C1式～A1式土器が主体で、大洞A1式も比較的多い。僅かだが、大洞B1式土器片も見られる（報告書：第7図2）。組成は、土偶3、岩版1点、その他、石剣類なし？、円盤状石製品3点、装飾品は、土製耳栓3、土製玉？1、点である。土製滑車状耳飾（報告書：第25図13）は、文様から大洞B1式期に帰属すると判断した。

#### ・宮城県旧鳴瀬町里浜貝塚西畑地点（第3表545～551）

約9×3mの調査範囲から出土した土器は、小片の後期後葉～大洞C1式を除き（東北歴史資料館1983：第5図）、ほぼ大洞C2式第Ⅰ段階に限られる。

組成は、土偶6（大型土偶なし）、岩版2、線刻礫13点（掲載は7点）、その他、石剣類21、装飾品には、土製花卉丸玉1、石製玉類9（勾玉状1、ヒスイ2）、鹿角製腰飾2点に代表される骨角製装飾品、貝輪が出土している（東北歴史資料館1985）。線刻礫は、他の遺跡に比べ不整形なものが多く、多少間引いて考えた

方が良いかもしれない。円盤状石製品の報告はないようだ。表の掲載箇所欄の機関名を東北歴史資料館→東歴に省略した。

## 5 小括

今回は、大洞A'式新～青木畑式期（砂沢式併行期）を中心にした遺跡、その他の短期遺跡を取り上げて、見通しをまとめ、悉皆調査に移っていく。

### 註

1 掲載土器のうち報告書第106図8の工字文陽部には縄文が施されており、大洞C2式第Ⅴ段階（高橋1993）の可能性もあるか。

2 金子（2011a）では、第2表1881（報告書第171図281）の刺突土偶を、背中の文様が肩パットの内側に収まっていることや背中の6字文が平行線を貫通していないなどから大洞A'式古期？としてしまったが、この特徴はメルクマールとまでは言えず、出土土器の傾向を考えれば大洞A'～青木畑式期の可能性もあると思われる。

3 町教委が調査した土偶集中地点の隣接地を1985年に國學院大學も調査しているが（国生1987：p.67）、報告書が出ていないので不明である。

4 「より大きな岩版が破損した後、周縁を研磨して整形し、再利用したのように見える」（報告書：p.135）

5 文様が稲野彰子氏の5類と6類のまさに中間的な様相を呈している。文様構成はほぼ5類だが、文様は楕円形でなく方形なのである。ただし6類のように密ではない。この文様は土器型式でいうといつになるのか。稲野氏が掲げた図に5類でかつ工字文を持つ例が見られるので（稲野1983：第5図L）、これ以後となるが、平鹿遺跡の報告書に大洞A2式～大洞A'式古期の土器は見られない。ただし、大洞A1式でやや変わった特徴を持つ台付浅鉢土器が見られ、文様が口縁部の狭い範囲に限られている（報告書：第45図1）。こうした特徴は、大洞A1式期でも新しい特徴であり（品川2003：第5図-1）、上記土版は、この時期の可能性もある。

6 裏面は、正中線を挟んで直線が多重に連続する意匠で、表面は、正中線を挟んで対向する多重方形弧線が三段に並ぶ意匠が崩れ、正中線と混じり、最下段は既に直線化している。文様意匠の過渡的变化を示しているであろう。片端に狭い貫通孔2。反対側に近い部分の中央に未貫通孔が1つあり、報告者は、上の二つを目、下の一つを臍と捉えている（報告書：p.22）。

7 “三方向貫通”とは、胴部縦位の貫通孔に臍からの貫通孔が接続しているものである。図は天地逆で、写真（第1分冊巻頭写真）の方が正しいと思う。そうして見ると、隆帯下の貼付は報告者の言うとおりの「女性の性器？」（青森県教育委員会1995：第1分冊p.358）といった状態を呈している。そして、この表現は、岩手県君成田遺跡出土の「後ろ手産土偶」（小杉2005：第2図）等とほぼ同じである。君成田出土例は、縄文こそないが、意匠は青森県風張（1）遺跡出土の国宝合掌土偶に非常に良く似ており、瘤付土器第Ⅰ段階に位置づけられる（金子2014a：p.37）。泉山例には（）状の文様が認められ、この文様は瘤付土器第Ⅰ段階の土偶の脇腹にしばしば認められる（例えば風張（1）遺跡例＝『土偶とその情報』研究会1994：青森県図版12の10、同13の6など）。泉山例も瘤付土器第Ⅰ段階の可能性が高い。そうすると、正中線中空土版の最古例となる。これまで最古と考えていた岩手県大日向Ⅱ遺跡例（金子2001：第24図1）は、瘤付土器第Ⅲ段階の可能性があり、文様意匠が非常に良く似ていて、泉山例→大日向Ⅱ例の変遷は極めてスムーズである。それにしても、泉山例は土偶と



の共通点が極めて多く、土偶の一部と考えるのが自然であろう。正中線中空土版は、土偶から生まれ、あるいは土偶の一列といふことになりそうである。

8 出土層位からは大洞C1式古期の可能性が示唆されるが、当該期に脚の分かる資料がない(金子2001)。大洞BC2式期の資料と比較すると、上方への屈曲具合からは腕の可能性が高いが、入組文という文様からは脚の方がふさわしいようである。大洞C2式期の脚を見ると(同上:第17図6)短く、本例からの変遷は十分に考えられることから、本稿では脚と判断する。

9 本例は部厚く筒状を呈するものであるため、報告者は岩偶と考えたようである。しかし、目口や正中線、乳房など人らしい表現を何ら持たないものを「岩偶」と称する訳にはいかない。本例ほどではないが厚みがあって長楕円形を呈する岩版は、米代川流域に認められる(稲野2007:第2図11、第5図19)。本稿では太形長楕円系列と仮称する。なお、長楕円形ではないが楕円形の厚みのある一群は、稲野彰子氏が、第1類以前に本来的分布圏の周辺に認められると注意している(稲野2004)。前述の稲野(2007)第2図11秋田県中小坂遺跡例には、魚眼状や玉抱三叉文が施されており、出土土器の傾向からも(秋田県教育委員会1988)大洞B1式新期の可能性が高い。同第5図19の秋田県藤株遺跡例は、文様と他の出土例から大洞BC2式期の可能性が高いが、小型で土版である。

10 出土した土坑は、143×97cmの不整楕円形で覆土は黒褐色土の単層である。土版以外に覆土から大洞A1式浅鉢や土器破片、完形の石鏃?1点、石核1点が出土している。土版は底面と覆土から出土した破片が接合したもので、全面に赤色付着物が認められ★、分析鑑定の結果ベンガラと判明している。

11 三片接合が図示されているが(第2分冊第240図)、観察表には一つの出土地点しか示されず(第1分冊p.215)本文にも解説はなく詳細は不明である。対向多重弧線と正中線の間を沈線で区画している。正中線に続く盲孔の両側にさらに小さな盲孔を施し、おそらく顔を表現しているものと思われる。

12 文様浅く粗雑。裏無文。表裏中央敲打痕。上辺打欠。

13 第9次報告(北上市教育委員会1986)のPL344-5と接合することが、後に判明し写真図版(北上市教育委員会1988:写真図版38の右下)では接合した状態で掲載されている。

14 正中線の先に盲孔があり、さらにそれを挟んで短沈線が両側に施されて一緒にすると顔に見える。文様間刺突充填。側面、沈線両側刻目列。厚さ0.8cm。

15 表裏貼り合わせて内部を空洞にしたもので、上端と下端に貫通孔あり。下端に瘤状の突起2個。流水工字文の周り細かい刺突充填。392g。

16 C11区・1層から出土したPL296-4と接合。本片はG12区・0層からの出土で、約10m離れている。なお、写真は、第11次報告書の写真図版34の右上に掲載されているが、キャプションが「414-⑥」となっている。

17 「PL474-2と同一個体」(第11次報告書:PL474-2観察表)。不整形土坑(18号土坑)出土。

18 C12区2層から出土したPL342-3と接合。本片は12区1層から出土しているので、3m以上離れている。

19 文様間刺突充填。「施文後焼成前の穿孔」(報告書:p.26)。側面刺突列。

20 側面沈線両側刺突列。「施文前焼成前の穿孔」(報告書:p.26)。「PL414-4と同一個体」(報告書:観察表)。厚さ2.9cm。

21 G7区18号土坑から出土した本破片とE12区1層から出土した第10次報告PL414-9と接合した。約14m程度離れての接合である。

22 H6区0層から出土した本破片とG3区・2層から出土した第7次報告PL242-3と接合した。約12m程度離れての接合である。直交方向の直線が施されているが、これは多重方形弧状線から多重直線への移行を示しているのだろうか。

23 里浜貝塚全体としては拠点集落として良いように思われるが、調査が行われた西畑地点は大洞C2式期には限られる。

## 参考文献

- 青森県教育委員会(1986)『今津遺跡・間沢遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第95集
- 青森県教育委員会(1995)『泉山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第181集
- 青森県教育委員会(1996)『泉山遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第190集(第4分冊)
- 青森県教育委員会(2010)『明戸遺跡・高屋遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第488集
- 秋田県教育委員会(1974)『鏡田遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第28集
- 秋田県教育委員会(1983)『平鹿遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第101集
- 秋田県教育委員会(1988)『中小坂遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第177集
- 秋田県教育委員会(1990)『諏訪台C遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第196集
- 秋田県教育委員会(1992)『曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ一家ノ後遺跡一』秋田県文化財調査報告書第229集
- 秋田県教育委員会(1994)『白坂遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第244集
- 秋田県教育委員会(2000)『戸平川遺跡』秋田県文化財調査報告書第294集
- 秋田県教育委員会(2003)『向様田A遺跡 遺構篇』秋田県文化財調査報告書第346集
- 秋田県教育委員会(2003)『向様田B遺跡・向様田C遺跡・向様田E遺跡』秋田県文化財調査報告書第347集
- 秋田県教育委員会(2003)『前通遺跡』秋田県文化財調査報告書第351集
- 秋田県教育委員会(2004)『向様田A遺跡 遺物篇』秋田県文化財調査報告書第370集
- 秋田県教育委員会(2005)『向様田D遺跡』秋田県文化財調査報告書第392集
- 秋田県教育委員会(2009)『向様田A遺跡』秋田県文化財調査報告書第445集
- 秋田県教育委員会(2010)『向様田D遺跡(第2次)』秋田県文化財調査報告書第452集
- 秋田市教育委員会(1986)『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』(地蔵田B遺跡)
- 稲野彰子(1983)「岩版」『縄文文化の研究第9巻 縄文人の精神文化』雄山閣 pp.102-113
- 稲野彰子(2004)「岩版の周辺」『時空をこえた対話—三田の考古学—』六一書房 pp.103-108
- 稲野彰子(2007)「米代川流域における岩版・土版第1類と第2類」北上市立博物館研究報告16:1-8
- 稲野彰子(2009)「岩木川流域における岩版・土版第1類と第2類」北上市立博物館研究報告17:1-8
- 助岩手県埋蔵文化財センター(1984)『安堵屋敷遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第74集
- 助岩手県埋蔵文化財センター(1985)『曲田I遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第87集
- 助岩手県文化振興事業団(1986)『手代森遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第108集
- 助岩手県文化振興事業団(1998)『大宮北遺跡・本宮熊堂A遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第281集
- 助岩手県文化振興事業団(2004)『本宮熊堂A遺跡第17次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第453集
- 助岩手県文化振興事業団(2006)『大橋遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第481集
- 助岩手県文化振興事業団(2007)『本宮熊堂A遺跡第26・29次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第502集

- 財団法人 岩手県文化振興事業団（2010）『雨滝遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第562集  
 大久保学・澤田恭平（2009）「明戸遺跡における昭和41年の試掘調査報告」『研究紀要』第14号 青森県埋蔵文化財調査センター大迫町教育委員会（1979）『小田遺跡発掘調査報告書』大迫町埋蔵文化財報告第4集  
 大迫町教育委員会（1990）『町内遺跡群発掘調査報告書Ⅳ』大迫町埋蔵文化財報告第18集  
 金子昭彦（1997）「土偶と土器の関係」『土偶研究の地平 土偶とその情報』研究論集（1） 勉誠社  
 金子昭彦（2001）『遮光器土偶と縄文社会』同成社  
 金子昭彦（2004）「東北地方の動物形土製品」月刊考古学ジャーナル 515：14-17  
 金子昭彦（2009a）「縄文晩期・東北北部の土製耳飾」縄文時代 20：159-180  
 金子昭彦（2009b）「東北地方・縄文晩期における弧状土製品」物質文化 87：23-39  
 金子昭彦（2010a）「北日本・縄文晩期のボタン状製品」岩手考古学 21：43-62  
 金子昭彦（2010b）「東北北部・縄文晩期の菱形環状製品」青森県考古学 18：23-32  
 金子昭彦（2010c）「東北地方・縄文晩期の土偶（1）」（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要 XXIX：1-24  
 金子昭彦（2010d）「縄文晩期・東北北部の土製耳飾（続）」縄文時代 21：121-142  
 金子昭彦（2011a）「東北地方・縄文晩期の土偶（2）」（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要 XXX：49-72  
 金子昭彦（2011b）「北日本・縄文晩期の三角玉ほかの装飾品」岩手考古学 22：1-36  
 金子昭彦（2011c）「北日本・縄文晩期の花卉丸玉、平玉」縄文時代 22：141-162  
 金子昭彦（2014a）「馬淵川における縄文晩期土偶の地域性」第11回土偶研究会八戸大会資料：37-46  
 金子昭彦（2014b）「東北地方・縄文晩期の土偶（4）」（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要 33：1-24  
 北上市教育委員会（1977）『九年橋遺跡第3次発掘調査報告書』文化財調査報告第18集  
 北上市教育委員会（1978）『九年橋遺跡第4次発掘調査報告書』文化財調査報告第23集  
 北上市教育委員会（1979）『九年橋遺跡第5次発掘調査報告書』文化財調査報告第25集  
 北上市教育委員会（1980）『九年橋遺跡第6次発掘調査報告書』文化財調査報告第29集  
 北上市教育委員会（1984）『九年橋遺跡第7次発掘調査報告書』文化財調査報告第35集  
 北上市教育委員会（1985）『九年橋遺跡第8次発掘調査報告書』文化財調査報告第39集  
 北上市教育委員会（1986）『九年橋遺跡第9次発掘調査報告書』文化財調査報告第42集  
 北上市教育委員会（1987）『九年橋遺跡第10次発掘調査報告書』文化財調査報告第44集  
 北上市教育委員会（1988）『九年橋遺跡第11次発掘調査報告書』文化財調査報告第47集  
 北上市教育委員会（1991）『九年橋遺跡第10次発掘調査報告書（補遺）』文化財調査報告第66集  
 国生 尚（1987）「3岩手県」日本考古学年報38（1985年度版）日本考古学協会：65-73  
 小杉 康（1986）「千葉県江原台遺跡及び岩手県雨滝遺跡出土の亀形土製品」明治大学考古学博物館報 2：51-71  
 小杉 康（2005）「子生みの造形・鼻曲りの造形」地域と文化の考古学Ⅰ：589-620  
 後藤信祐（1985）「独鈷状石器小考」唐澤考古 5 唐澤考古会 1-13  
 後藤信祐（1987）「縄文後晩期の刀剣形石製品の研究（下）」考古学研究 33-4 考古学研究会 28-48  
 （財団法人）古代学協会（1997）『青森県石亀遺跡における亀ヶ岡文化の研究』古代学研究所研究報告第5輯  
 品川欣也（2003）「器種と文様、そして機能の相関関係にみる大洞A式土器の変遷過程」駿台史学 119 97-134  
 紫波町教育委員会（1985）『城内遺跡』  
 高橋龍三郎（1993）「大洞C2式土器細分のための諸課題」先史考古学研究4：83-151  
 東北大学文学部考古学研究会（1984）『中沢目貝塚』  
 東北大学文学部考古学研究会（1995）『縄文時代晩期貝塚の研究2 中沢目貝塚Ⅱ』  
 東北歴史資料館（1983）『里浜貝塚Ⅱ』東北歴史資料館資料集7  
 東北歴史資料館（1984）『里浜貝塚Ⅲ』東北歴史資料館資料集9  
 東北歴史資料館（1985）『里浜貝塚Ⅳ』東北歴史資料館資料集13  
 『土偶とその情報』研究会（1994）『土偶シンポジウム2秋田大会 東北・北海道の土偶Ⅰ』  
 都南村教育委員会（1986）『手代森遺跡』  
 十和田市教育委員会（1983）『明戸遺跡発掘調査概報』十和田市埋蔵文化財発掘調査報告第2集  
 十和田市教育委員会（1984）『明戸遺跡発掘調査報告書』十和田市埋蔵文化財発掘調査報告第3集  
 十和田市教育委員会（2010）『高屋遺跡Ⅱ・明戸遺跡Ⅴ』十和田市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集  
 中門亮太（2013）「東北地方北部における瘤付土器の基礎的研究」古代 131 早稲田大学考古学会：49-84  
 宮城県教育委員会（1985）『色麻町香ノ木遺跡・色麻古墳群』宮城県文化財調査報告書第103集  
 八木勝枝（2006）「岩手県2004年度土偶情報」『第3回土偶研究会発表資料』：26-33  
 渡辺仁（2001）『縄文土偶と女神信仰』同成社